



Electronic Piano

P-140/P-140S

取扱説明書

*Electronic
Piano*

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

警告

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの（PA-5D または
ヤマハ推奨の同等品）を使用する。
（異なった電源アダプターを使用すると）故障、発熱、
火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを
きれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



禁止

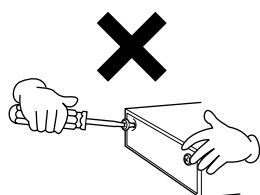
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近
づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、
電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因に
なります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり
改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常
を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げ
の楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス
拠点にご依頼ください。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置か
ない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いと
ころで使用しない。

感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置か
ない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりま
す。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、ま
たは、使用中に音が出なくなったり異常なおいや
煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、
電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、
お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製
品サービス拠点に点検をご依頼ください。

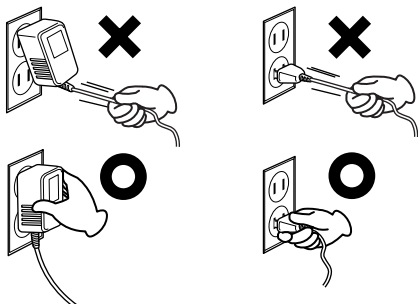
⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



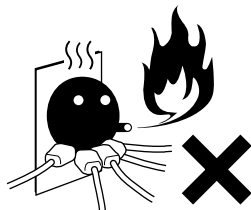
必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。



禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

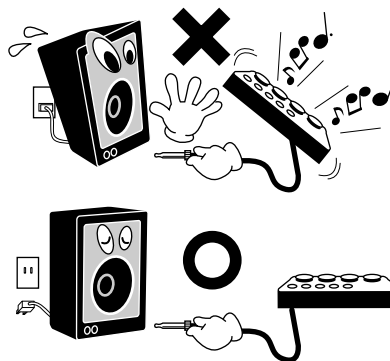
指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



禁止

指などをはさまないように注意する。また、本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

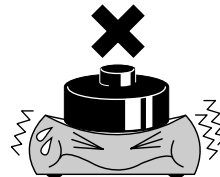
本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをした原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



データの保存

データの保存とバックアップ



必ず実行

コンピューターから読み込んだソングデータやご自分で録音したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューター側に保存してください。(49 ページ)

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハ電子ピアノP-140/P-140Sをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
P-140/P-140Sの優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

P-140の特長

自然なタッチを実現した鍵盤機構「グレードハンマー鍵盤」

グランドピアノの弾き心地を探求して開発されたグレードハンマー鍵盤は、低音部と高音部とでは微妙に重さの違うグランドピアノの鍵盤タッチを再現しました。その本格的な質感は、低音域から高音域まで自然なバランスで演奏する人の心をとらえます。

フルコンサートグランドピアノの音をデジタルで録音 (AWMダイナミックステレオサンプリング)

P-140は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMダイナミックステレオサンプリング」による豊かな音色を実現しています。

さらに、グランドピアノGRAND PIANO 1、3の音色では、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしており(ダイナミックサンプリング)、サステインペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴音をサンプリングした「サステインサンプリング」、鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングした「キーオフサンプリング」を採用し、ぜいたくな音作りを行なっています。

取扱説明書(本書)について

取扱説明書(本書)は、「準備編」、「本編」、「付録」の3部構成になっています。

準備編

最初にお読みください。

9ページの「目的別目次」、10ページの「各部の名前と機能」では、ご自分に合った電子ピアノの使い方と、その説明ページを見つけることができます。

本編

電子ピアノの機能の使い方と操作を詳しく説明しています。

実際に電子ピアノの操作をしながらご覧ください。

付録

音色一覧などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

[].....パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で [MASTER VOLUME]スライダーと表記します。



.....操作するときには必ず実行していただきたい内容を説明しています。



.....操作するときにはしてはいけない事項を説明しています。



.....「用語」です。P-140に関する用語や、専門用語を説明しています。

*この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

*本文中では、P-140を「電子ピアノ」と表記することがあります。また、P-140とP-140Sを代表してP-140と表記します。

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

付属品(お確かめください)

- 保証書
- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- 電源アダプター PA-5D(またはヤマハ付属の同等品)
- フットペダル FC3
- 譜面立て

目次

準備編

P-140の特長	6
取扱説明書(本書)について	7
付属品(お確かめください)	7
目的別目次	9
各部の名前と機能	10
ご使用前の準備	12
電源を入れる	12
音量(ボリューム)を調節する	12
ペダルを接続する	13
ヘッドフォンを使う	13
譜面立てを使う	13

本編

デモ曲を聞く	14
ピアノ50曲(プリセットソング)を活用する	15
ピアノ50曲を聞く	15
ピアノ50曲の片手練習をする	16
ピアノ50曲の部分練習をする	18
音色を楽しむ	19
音色を選ぶ	19
音色を重ねる(デュアル)	20
鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く (スプリット)	21
音に変化を付ける[VARIATION]	23
音に残響、効果を付ける[REVERB]/[EFFECT]	24
タッチ感を変える[TOUCH]	25
キー(調)を変える[TRANSPOSE]	26
メトロノームを使う[METRONOME]	27
演奏を録音(記録)する	28
演奏を簡単に録音する	28
録音し直す	29
RIGHT/LEFTパートに録音する	30
初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する	32
曲を再生する	33
ユーザーソング/外部ソングを再生する	33
各種の便利な設定をする [FUNCTION]	35
ファンクションでの基本操作	36
各ファンクション項目の説明	38
他の機器と接続する	46
端子に接続する	46
コンピューターと接続する	48
コンピューターヘデータのバックアップ	49
困ったときは	50

付録

音色一覧	51
初期設定一覧	52
メッセージ一覧	54
MIDIデータフォーマット	55
MIDIインプリメンテーションチャート	58
P-140仕様	59
別売品のご紹介	59
索引	60

目的別目次

目的に応じた説明ページを見つけるのにご利用ください

聞く

- 音色ごとのデモ曲が聞きたい.....「デモ曲を聞く」(14ページ)
- 「ピアノで弾く名曲50選」の曲が聞きたい.....「ピアノ50曲を聞く」(15ページ)
- 録音した演奏が聞きたい.....「曲を再生する」(33ページ)
- 市販のミュージックデータを聞きたい.....「曲を再生する」(33ページ)

弾く

- ペダルを使いたい.....「ペダルを接続する」(13ページ)
- 一人一人のキーに合った伴奏をしたい.....「キー(調)を変える [TRANSCOPE]」(26ページ)
- 音の強弱の付き方を変えたい.....「タッチ感を変える [TOUCH]」(25ページ)
- 他の楽器やCDの音楽に合わせて演奏したい.....「F1. 音の高さの微調整(チューニング)」(38ページ)

音を変える

- どんな音に変えられるのか知りたい.....「音色一覧」(51ページ)
- 2つの音色を組み合わせた.....「音色を重ねる(デュアル)」(20ページ)
- 右手と左手を違う音で弾きたい.....「鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く(スプリット)」(21ページ)
- 明るく鋭い音や柔らかくまるやかな音にしたい.....「音に変化を付ける [VARIATION]」(23ページ)
- コンサートホールで弾いているような音にしたい.....「音に残響、効果を付ける [REVERB]」(24ページ)
- 広がり感を付けた音や揺れるような音にしたい.....「音に残響、効果を付ける [EFFECT]」(24ページ)

練習する

- 右手または左手パートの音を消して練習したい.....「ピアノ50曲の片手練習をする」(16ページ)
- 同じところを繰り返し練習したい.....「ピアノ50曲の部分練習をする」(18ページ)
- 正確なテンポで練習したい.....「メトロノームを使う [METRONOME]」(27ページ)
- 自分で録音した曲を使って練習したい.....「演奏を録音(記録)する」(28ページ)
.....「パートの再生オン/オフ」(34ページ)

録音する

- 演奏を録音したい.....「演奏を録音(記録)する」(28ページ)

設定する

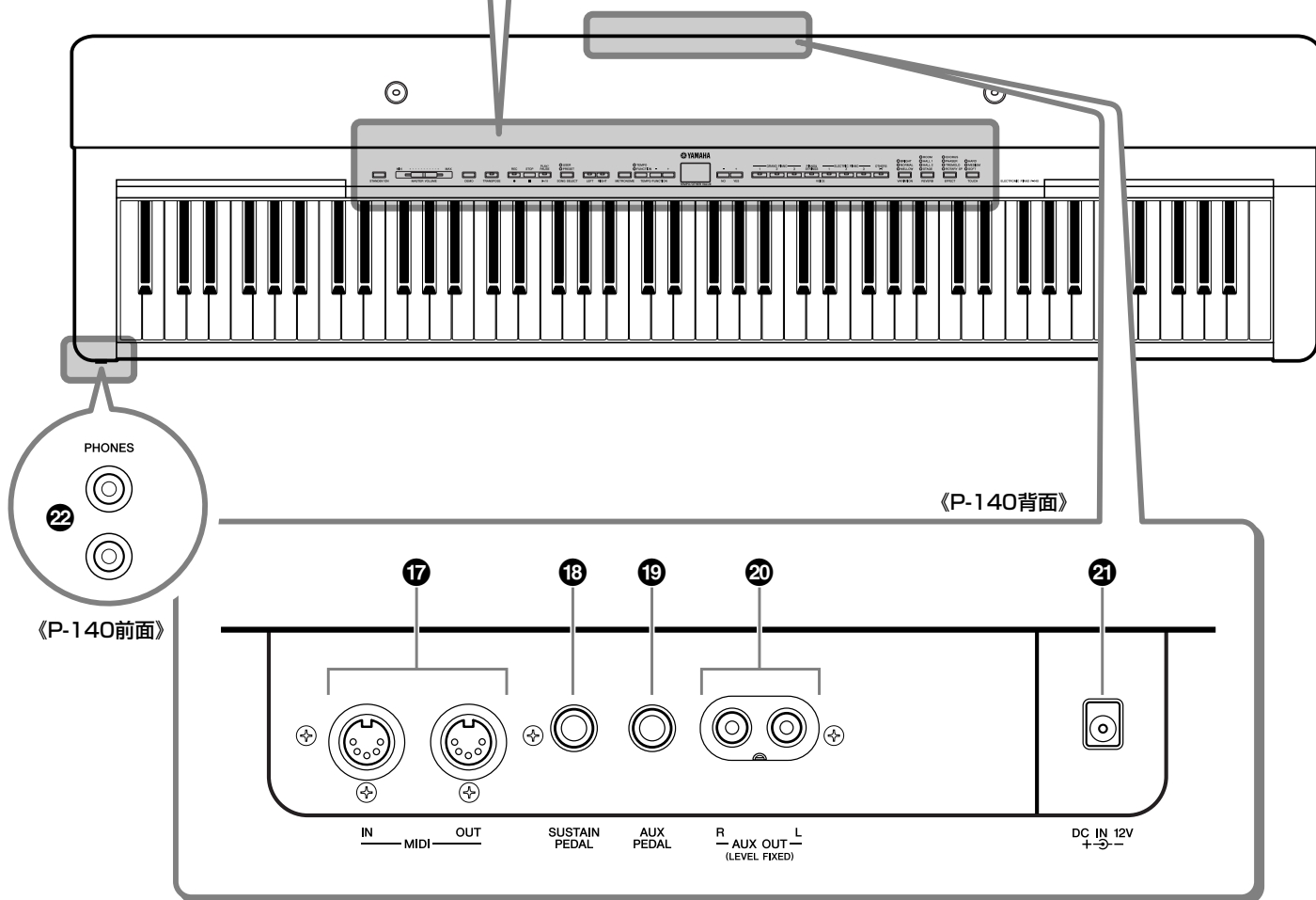
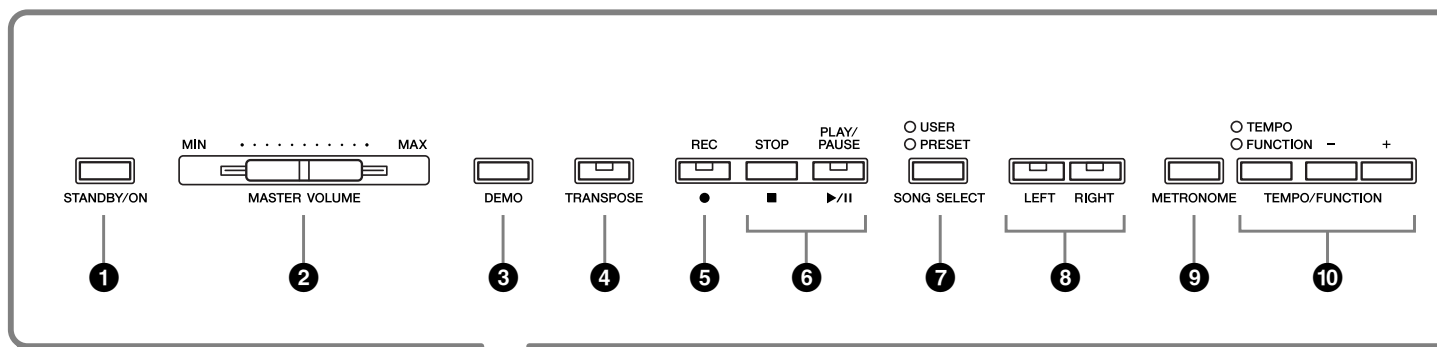
- いろいろな機能をもっと細かく設定したい.....「各種の便利な設定をする [FUNCTION]」(35ページ)
- 初期設定に戻りたい.....「初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻すには」(45ページ)

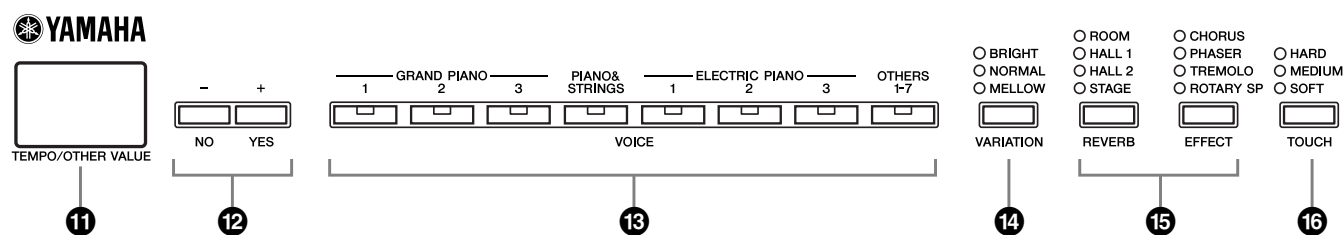
他の機器と接続して使う

- MIDIって何?.....「MIDIについて」(46ページ)
- MIDIの設定をしたい.....「F8. MIDI機能の諸設定」(43ページ)
- 演奏を録音したい.....「端子に接続する」AUX OUT [R][L]端子(47ページ)
- もっと大きな音を出したい.....「端子に接続する」AUX OUT [R][L]端子(47ページ)
- パソコンとつなぎたい.....「コンピューターと接続する」(48ページ)
- コンピューターにデータを保存したい.....「コンピューターへデータのバックアップ」(49ページ)
- コンピューターからデータをロードしたい.....「曲を再生する」(33ページ)

各部の名前と機能

準備編





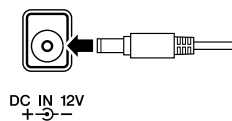
- ① **[STANDBY/ON]**スイッチ 12ページ
スタンバイ/オン
スイッチを押して電源を入れます。
- ② **[MASTER VOLUME]**スライダー 12ページ
マスターボリューム
音量を調節できます。
- ③ **[DEMO]**ボタン 14ページ
デモ
音色ごとのデモ曲を聞くことができます。
- ④ **[TRANSPOSE]**ボタン 26ページ
トランスポーズ
弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えることができます。
- ⑤ **[REC]**ボタン 28ページ
レコード
ご自分の演奏を録音できます。
- ⑥ **[PLAY/PAUSE]**、**[STOP]**ボタン 15、33ページ
プレイ/ポーズ ストップ
楽器本体に入っているピアノ50曲やご自分の演奏を録音したものを再生できます。
- ⑦ **[SONG SELECT]**ボタン 15、33ページ
ソングセレクト
再生や録音する曲を選べます。
- ⑧ **[RIGHT]**、**[LEFT]**ボタン 16、34ページ
ライト レフト
曲の特定のパートを再生オフにし、再生オフにしたパートをご自分で練習できます。
- ⑨ **[METRONOME]**ボタン 27、43ページ
メトロノーム
メトロノームの機能を利用できます。
- ⑩ **[TEMPO/FUNCTION - +]**ボタン 27、36ページ
テンポ / ファンクション
テンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりします。
- ⑪ **画面** 12ページ
電源を入れると、画面にテンポが表示されます。画面に応じて、いろいろな曲番号、各種設定値など表示されます。
- ⊗ 画面に「---」が表示されているとき(データアクセス中)は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ⑫ **[-/NO]**、**[+/YES]**ボタン 12ページ
ノー イエス
数値を設定したり曲や項目を選んだりできます。テンポやトランスポーズなどの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押すと、元の値(初期設定値)に戻すことができます。
- ⑬ **音色**ボタン 19ページ
音色ごとのデモ曲を聞くことができます。
- ⑭ **[VARIATION]**ボタン 23ページ
バリエーション
音の明るさを調節できます。
- ⑮ **[REVERB]**、**[EFFECT]**ボタン 24ページ
リバーブ エフェクト
音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけたりすることができます。
- ⑯ **[TOUCH]**ボタン 25ページ
タッチ
弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を調節することができます。
- ⑰ **[MIDI [IN][OUT]]**端子 46ページ
ミディ イン アウト
MIDI機器を接続する際に使います。
- ⑱ **[SUSTAIN PEDAL]**端子 13、46ページ
サステインペダル
付属のフットペダルFC3を接続します。または、別売のフットスイッチFC4/FC5も接続できます。
- ⑲ **[AUX PEDAL]**端子 13、47ページ
エーユーエックスペダル
別売のフットスイッチFC4/FC5やフットコントローラーFC7を接続します。付属のフットペダルFC3も接続できます。
- ⑳ **AUX OUT [L, R] (LEVEL FIXED)**端子 47ページ
エーユーエックスアウト レベルフィックスト
P-140の音を外部オーディオから出したり、MDレコーダーなどを接続してご自分の演奏を録音したりできます。
- ㉑ **[DC IN 12V]**端子 12ページ
ディーシーイン12ボルト
付属の電源アダプターを接続します。
- ㉒ **[PHONES]**端子 13ページ
フォーンズ
ヘッドフォンを接続します。

ご使用前の準備

電源を入れる

1 付属の電源アダプターのDCプラグをリアパネル の[DC IN 12 V]に差し込む

ディーシーイン 12 ボルト

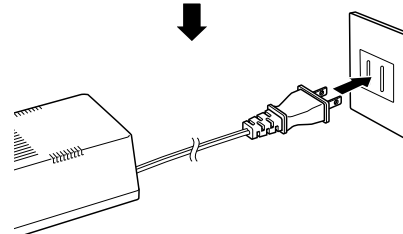


2 付属の電源アダプターのACプラグを家庭用(AC 100V) コンセントに差し込む

❗ 電源アダプターは、必ず指定のもの(PA-5Dまたはヤマハ推奨の同等品)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、火災などの原因になります。

❗ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

❗ 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



3 本体パネル左の[STANDBY/ON]スイッチを押す

スタンバイ/オン

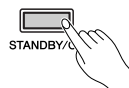
電源が入り、本体パネル中央の画面に表示が現れます。

電源を切るときは、もう一度[STANDBY/ON]スイッチを押します。

❗ 電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。P-140を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

電源アダプターを抜くときは、本体の電源スイッチ[STANDBY/ON]が切れていることを確認後、上記操作2から1の順に抜いてください。

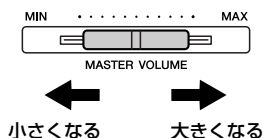
電源を切るときは、画面表示が消えるまで[STANDBY/ON]スイッチを押してください。本製品は、[STANDBY/ON]スイッチが鍵盤の近くにあり、演奏中の誤操作で電源を切ってしまうことを防ぐために、長めにボタンを押さないと電源が切れないように設定してあります。



画面
通常はテンポが表示されます。

音量(ボリューム)を調節する

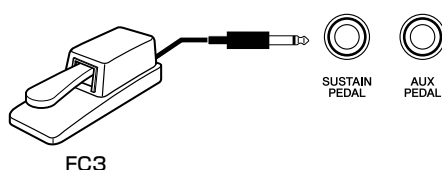
本体パネル左の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーで[PHONES]端子の出力レベルも調節できます。

ペダルを接続する



サステインペダル(SUSTAIN PEDAL端子)

電源を切った状態で付属のフットペダルFC3を接続します。このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。またFC3はハーフペダル対応ですので、踏み込むほど音が長く伸びます。

P-140では[GRAND PIANO 1、3]の音色で、サステインペダルを踏むと、ピアノのダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴効果(サステインサンプリング)が加わります。

なお別売のフットスイッチFC4/FC5も接続できますが、その場合はハーフペダルは対応しません。

- ファンクションでサステインペダルの共鳴効果の深さを調節できます。(36、42ページ)

AUXペダル(AUX PEDAL端子)

別売のフットスイッチFC4/FC5や、フットコントローラーFC7を接続する端子です。ソフトペダル機能などいろいろな機能を割り当てて使用することができます。機能の割り当てはファンクションで行ないます。(36、42ページ)

- フットコントローラーFC7は「エクスペッション」をコントロールする場合に使用します。(36、42ページ)

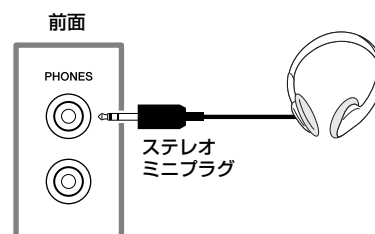
ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを[PHONES]端子に接続して使います。

[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

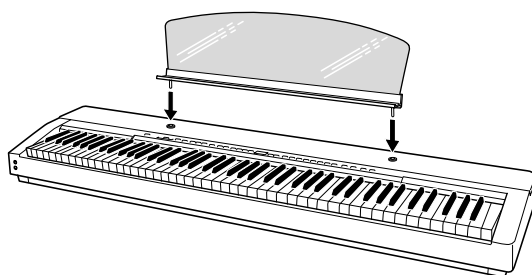
1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



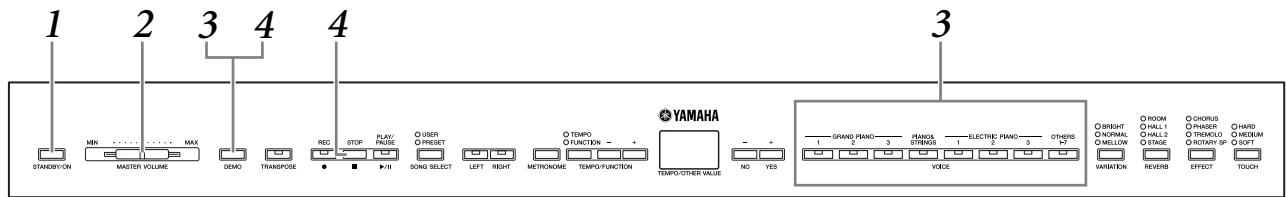
譜面立てを使う

本体奥側の穴に差し込んで使用します。



デモ曲を聞く

P-140には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



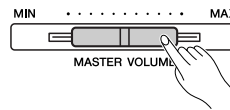
1 スタンバイ/オン [STANDBY/ON]スイッチを押す

電源を入れていない場合は、電源が入ります。



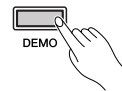
2 音量を調節する

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げておいてください。



3 デモ [DEMO]ボタンを押す

音色ボタンのランプが流れるように点滅したあと、GRAND PIANO 1の曲が再生されます。その後、ストップ操作(手順4)をするまで各音色用に準備されたデモ曲が順番に再生されます。



デモ曲の再生データはMIDI送信されません。

録音モード(28ページ)のときはデモ曲の再生はできません。

選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押すと、デモ曲の再生がスタートします。

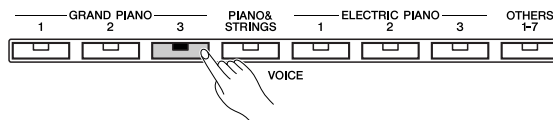
●デモ曲

音色	曲名	作曲者
GRAND PIANO 3(グランドピアノ3)	森の情景 ピアノのための9つの小品より「森の入り口」	シューマン
HARPSICHORD(ハープシコード) ([OTHERS]ボタンで「0 4」表示)	ガボット	バッハ

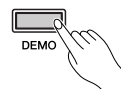
上記デモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。
上記以外の曲は、オリジナル曲です。(© 2005 Yamaha Corporation)

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」(16ページ)、「部分練習」(18ページ)はできません。

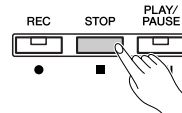
デモ曲再生中に[OTHERS]ボタンを押すと、[OTHERS]ボタンの中に入っている音色のデモ曲が、ボタンを押すたびに切り替わります。



4 デモ [DEMO]ボタンか[STOP]ボタンを押して、再生をストップ



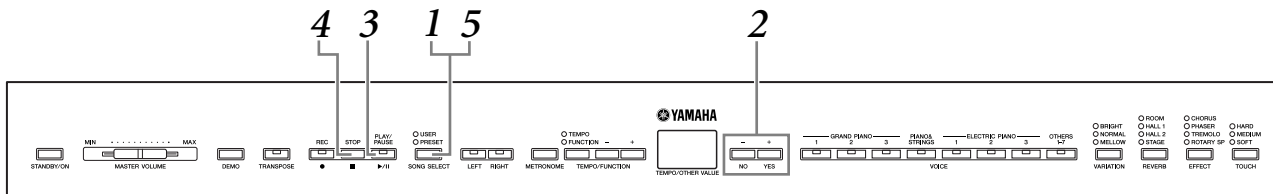
または



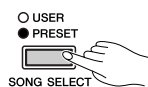
ピアノ50曲(プリセットソング)を活用する

ピアノ50曲を聞く

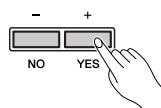
P-140には、ピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の『ピアノで弾く名曲50選』の楽譜集には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。



1 **ソングセレクト**
[SONG SELECT]ボタンを押して、
プリセット
「PRESET」のランプを点灯させる



2 **プリセット**
[-/NO][+/YES]ボタンを押して、
聞くピアノ曲を選ぶ

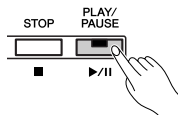


1~50 聞く曲番号を指定して1曲だけ再生します。

オール
ALL ピアノ50曲を順番に、ストップするまで
連続再生します。

ランダム
rand ピアノ50曲を順不同に、ストップするまで連続再生します。

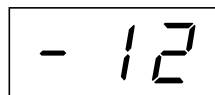
3 **プレイ/ポーズ**
[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生が
スタート



テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが[TEMPO/FUNCTION - +]ボタンを押してテンポを変更できます。この操作により、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50~50)が画面に表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)

[-][+]ボタンを同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。曲固有のテンポのときは「- - -」と表示されます。



4 **再生ストップ**

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、[STOP]ボタンを押します。続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

再生途中に[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、曲が一時的に停止します。



5 **ソングセレクト**
[SONG SELECT]ボタンを押して、ピアノ曲を終わる

[SONG SELECT]のランプが消灯します。

ソングとは

P-140では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

PRESET=プリセット

楽器内部のメモリーにあらかじめ内蔵されているデータです。

テンポのリセット(再設定)

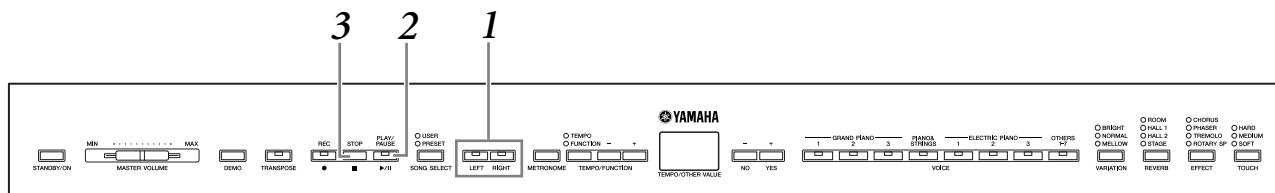
新しい曲を選んだり、連続再生で新しい曲がスタートしたりすると、テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

[REVERB]、[EFFECT](24ページ)は新しい曲を選んだり、連続再生で新しい曲がスタートしたりすると、その曲に合ったリバーブ/エフェクトの種類が自動的に選ばれます。

曲の再生中に[VARIATION](23ページ)、[REVERB](24ページ)の種類を切り替えることもできます。

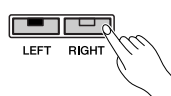
ピアノ50曲の片手練習をする

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートに分かれています。それぞれの再生をオン/オフし、再生をオフにしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが[RIGHT]に、左手パートが[LEFT]に入っています。



1 練習するパートの再生をオフにする

選曲したあと、[RIGHT]、[LEFT]ボタンのうち、練習したいパートのボタンを押して再生をオフにします。(選曲した時点では[RIGHT]、[LEFT]共ランプが点灯しています。)
[RIGHT]、[LEFT]ボタンは、押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。また再生中でも、パートごとの再生オン/オフを切り替えることができます。



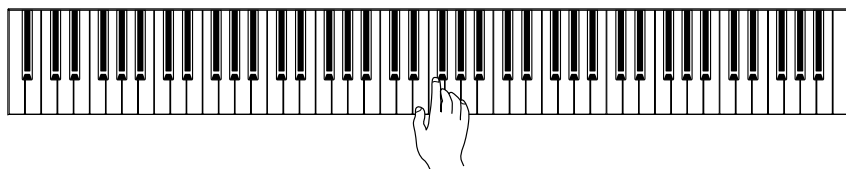
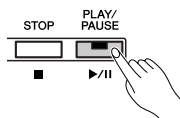
ピアノ50曲を *ALL* (オール) と *rand* (ランダム) (15ページ) で再生しているときは、パートの再生をオフにすることはできません。

再生をオフにしたパートの音量調節

再生をオフにしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しか音を出しています。この音量の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション (36、43ページ) でできます。

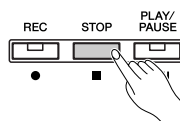
2 ^{プレイ/ポーズ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生スタート/演奏

再生をオフにしたパートをご自分で演奏してください。



3 再生ストップ

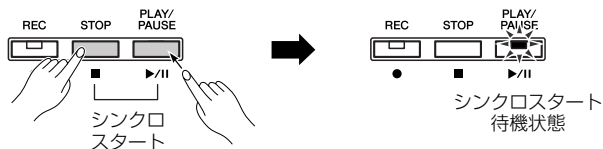
ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、[STOP] ボタンを押します。再生途中で[PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、曲が一時停止します。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)できます。

[STOP]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になります。もう一度同じ操作をすると、シンクロスタート待機状態は解除されます。



このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

シンクロ=同時の、同時に起こる

ペダルで再生/一時停止する

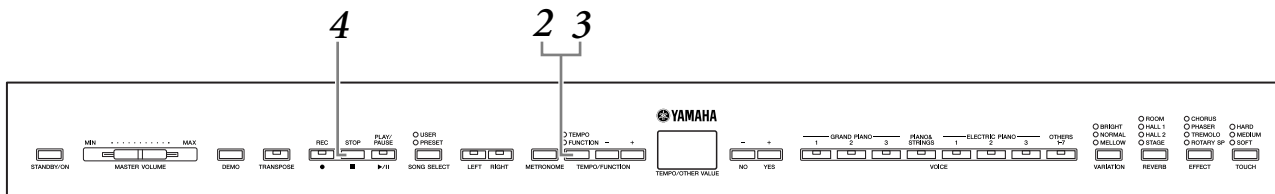
AUX PEDAL端子に接続したペダルを踏むことにより、曲を再生/一時停止できます。

ファンクション(36、42ページ)でAUX PEDAL端子に接続したペダルの機能を、再生/一時停止(パネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾きだして、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。

ピアノ50曲の部分練習をする

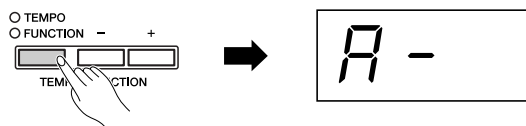
曲中のフレーズを指定して繰り返し部分練習(A-b REPEAT)することができます。16ページの「ピアノ50曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。



1 選曲し、再生をスタート

2 聞きながら、始まり(A点)にしたいところで[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押す

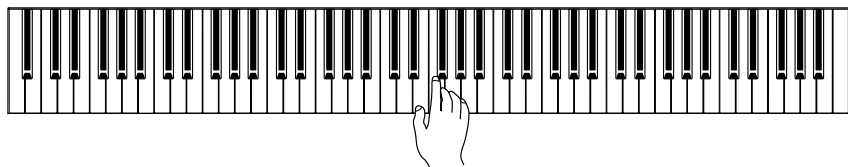
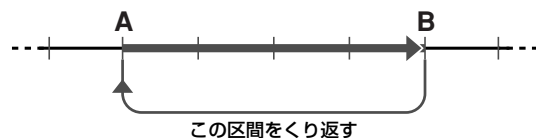
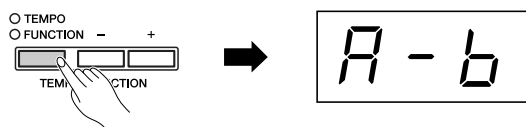
始まり(A点)が設定され、画面に **R-** と表示されます。



3 聞きながら終わり(B点)にしたいところでもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押す

終わり(B点)が設定され、画面に **R-b** と表示されます。

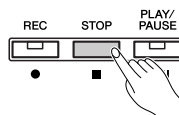
同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習したいパートをオフ(16ページ)にしたうえで、練習しましょう。



4 [STOP]ボタンを押して、練習ストップ

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。

もう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと、A点、B点の設定は解除されます。



ピアノ50曲を *All* (オール) と *rand* (ランダム)(15ページ)で再生しているときは、繰り返し練習はできません。

曲の先頭から繰り返しを始めたときは

再生をスタートする前に [TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して始まり(A点)を設定します。

曲の終わりをB点に設定したいときは

A点を設定したあとで曲の終わりまで再生すると、曲の終わりが自動的にB点に設定されます。

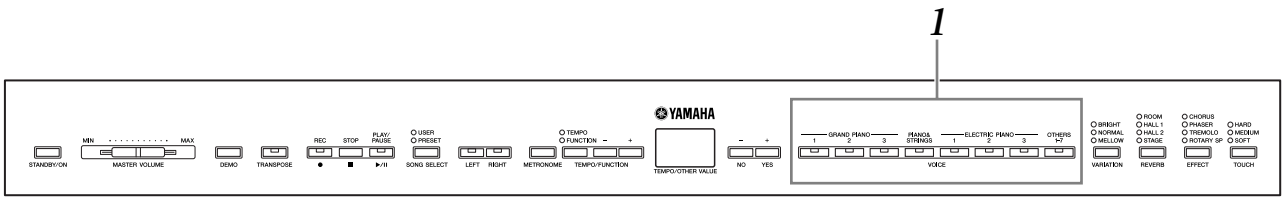
再生の出だいでタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

新しい曲を選ぶと

A点、B点は自動的に解除されます。

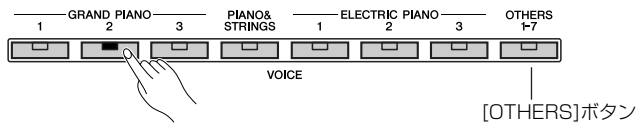
音色を楽しむ

音色を選ぶ



1 使いたい音色ボタンを押す

ランプが点灯します。



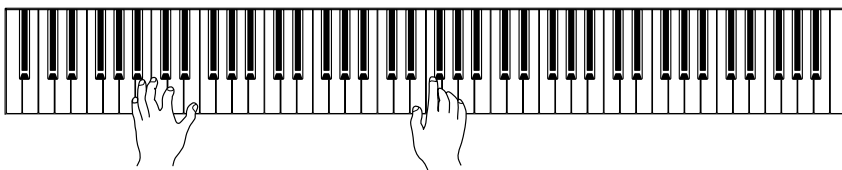
[OTHERS]ボタン

[OTHERS]ボタンを押すごとに、以下の7つの音色が切り替わります。

1	チャーチオルガン
2	ジャズオルガン
3	ストリングス
4	ハーブシコード
5	エレクトリッククラビコード
6	ビブラフォン
7	スプリット

スプリットについては、21ページをご参照ください。

[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節しながら演奏してください。



音色の特徴をつかむには音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(14ページ)「音色一覧」(51ページ)もご参照ください。

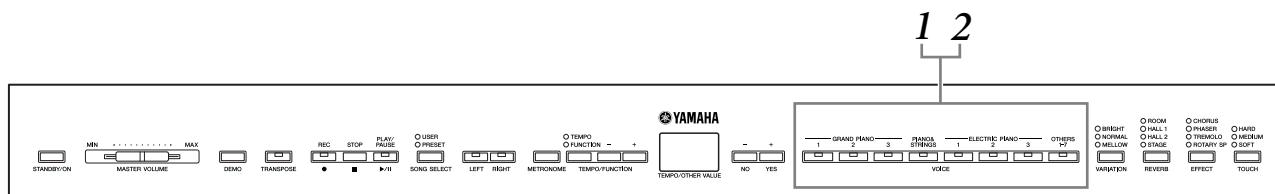
VOICE=音色

タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(51ページ)をご参照ください。

[OTHERS]ボタンで最後に選んだ音色は、次に別の音色ボタンで音色を切り替えて、再び[OTHERS]ボタンを押しても最後に選ばれていた音色が呼び出されます。

音色を重ねる(デュアル)

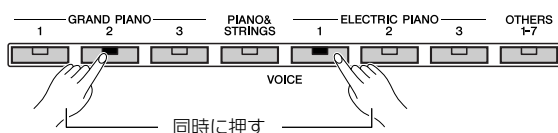
音色を重ねる機能をデュアルといいます。同系統の音色を鳴らせば、厚みのある音を作り出せます。



1 2つの音色ボタンを同時に押して(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押して)、デュアルに入る

2つの音色ボタンのランプが点灯します。

鍵盤を弾いてみましょう。

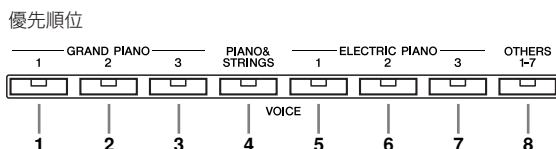


[OTHERS]ボタンの中の音色をデュアルに設定したい場合は、音色ボタンを押しながら[OTHERS]ボタンを数回押して選択したい音色を選んでください。

デュアルのときの[REVERB]、[EFFECT]の種類は、下記の優先順位で2つの音色のうち番号が若い方の音色が優先されます。優先された音色の種類がオフの場合は、もう一方の音色のものになります。

[REVERB]、[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO]、[+/YES]ボタンを押して深さを調節する場合は、2つの音色のうち番号の若い方の音色だけに影響します。

※ 番号の若い音色を第1音色、もう一方を第2音色と呼びます。



デュアルでの音量バランスやオクターブ、エフェクトの深さの設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3」(36、40ページ)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 別の音色ボタンを押すと、デュアルを抜ける

デュアルとスプリット

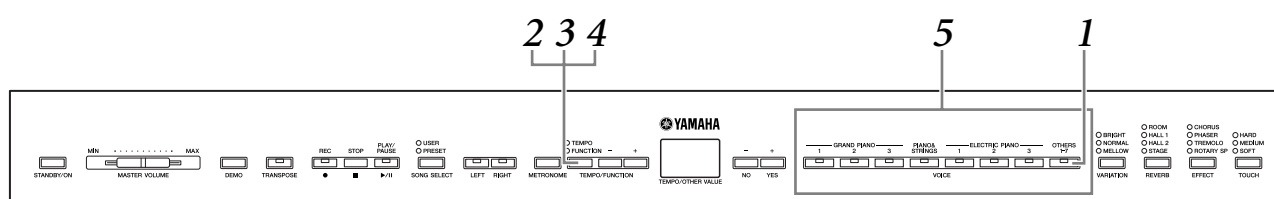
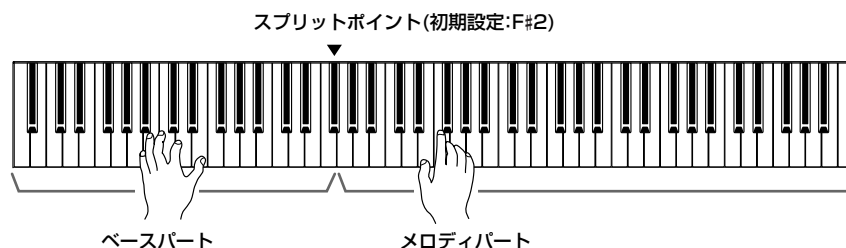
[OTHERS]ボタンのスプリットをデュアルに使うことはできません。

[OTHERS]ボタン内にある音色同士でのデュアル設定はできません。

[PIANO&STRINGS]は、すでにピアノとストリングスを重ねた音色になっています。さらに、音色を重ねることもできませんが、発音数の制限上、音切れが発生する可能性があります。

鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く(スプリット)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色を選んで演奏する機能をスプリットといいます。たとえば、左手の領域で「WOOD BASS」や「E.BASS」などの音色でベースパートを、右手の領域でメロディーパートを演奏したりすることができます。

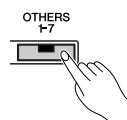
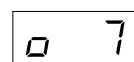


1 画面に「0 7」が表示されるまで、^{アザース}[OTHERS]ボタンを押して、スプリットに入る

[OTHERS]ボタンが点灯します。

この時点で、初期設定の右側音色[GRAND PIANO 1]、左側音色[WOOD BASS]が選ばれます。

スプリットでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF4」(36、41ページ)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)



2 スプリットポイント(右左鍵域の境め)を決める

スプリットポイントは「ファンクションF4」(36、41ページ)で設定します。スプリットポイントの初期設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

3 右側の音色を決める

演奏したい音色を、「ファンクションF4」(36、41ページ)で設定します。
右側の音色は、13音色の中から選ぶことができます。

1	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)
2	GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)
3	GRAND PIANO 3 (グランドピアノ3)
4	PIANO & STRINGS (ピアノ&ストリングス)
5	ELECTRIC PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)
6	ELECTRIC PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)
7	ELECTRIC PIANO 3 (エレクトリックピアノ3)
8	CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)
9	JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)
10	STRINGS (ストリングス)
11	HARPSICHORD (ハープシコード)
12	E.CLAVICHORD (エレクトリッククラビコード)
13	VIBRAPHONE (ビブラフォン)

4 左側の音色を決める

演奏したい音色を、「ファンクションF4」(36、41ページ)で設定します。
左側の音色は、4音色の中から選ぶことができます。

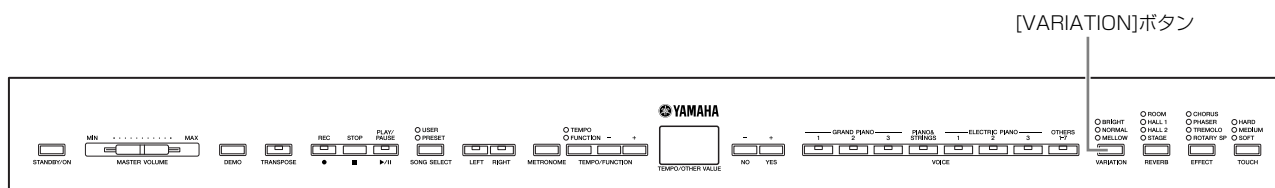
1	WOOD BASS (ウッドベース)
2	BASS & CYMBAL (ベース&シンバル)
3	E.BASS 1 (エレクトリックベース1)
4	E.BASS 2 (エレクトリックベース2)

5 別の音色ボタンを押して、スプリットを抜ける

スプリットのときの[REVERB]
右側の音色のリバーブの種類が、優先されます。(右側の音色のリバーブの種類がオフの場合は、左側の音色のものになります。)パネルで[REVERB]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押し、深さの調節をする場合は、右側の音色にだけ影響します。

スプリットのときの[EFFECT]
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに初期設定を持っていますが、「ファンクションF4」(36、41ページ)で音色ごとに任意に設定することもできます。パネルで[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押し、深さの調節をする場合は、右側の音色にだけ影響します。

バラエーション 音に変化を付ける[VARIATION]



バラエーション [VARIATION]

音質を調節して違った表現の音にします。BRIGHTでは明るく鋭い音になり、MELLOWにすると柔らかくまろやかな音になります。

ブライト
BRIGHT明るく鋭い音になります。

ノーマル
NORMAL標準的な音質です。

メロウ
MELLOW柔らかくまろやかな音になります。

操作

[VARIATION]ボタンを押すごとに音質が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。バラエーションは、3種類の音質が選べます。



初期設定とは

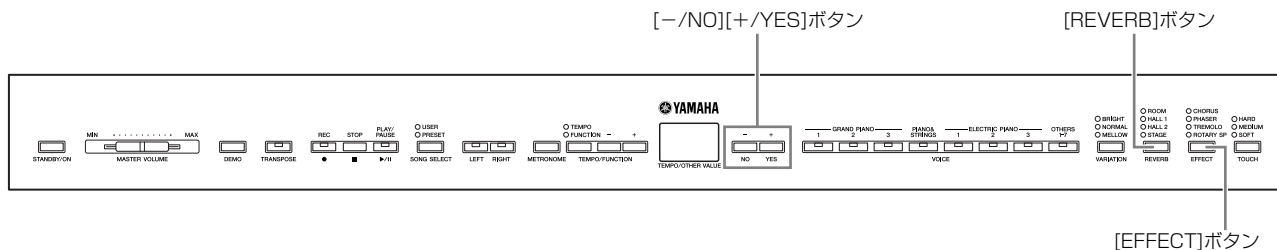
本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

初期設定

NORMAL

[BRIGHT]にすると、音量が少し大きくなりますので、[MASTER VOLUME]が上がっていると、音がひずむことがあります。この場合、[MASTER VOLUME]を少し下げてください。

リバーブ エフェクト 音に残響、効果を付ける[REVERB]/[EFFECT]



本編

リバーブ [REVERB]

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフリバーブはかかりません。

ルーム
ROOM部屋の中にあるような響きになります。

ホール
HALL 1小さいコンサートホールにいるような響きになります。

ホール
HALL 2大きいコンサートホールにいるような響きになります。

ステージ
STAGEステージにいるような響きになります。

操作

[REVERB]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

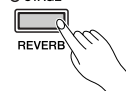
深さ(かかり具合)を変える

[REVERB]ボタンを押している間は画面にリバーブの深さの値が表示されます。

音色ごとに標準の深さがあらかじめ設定されています。

[REVERB]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さ0(効果なし)から20(最大)まで変わります。

- ROOM
- HALL 1
- HALL 2
- STAGE



初期設定

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)はあらかじめ設定されています。

リバーブの種類は[REVERB]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[REVERB]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[REVERB]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

エフェクト [EFFECT]

音に効果を付け加えます。

その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフエフェクトはかかりません。

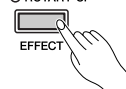
コーラス
CHORUS広がり感を付けます。

フェーザー
PHASERうねりを持たせます。

トレモロ
TREMOLLO音量を揺らします。

ロータリースピーカー
ROTARY SPロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果です。

- CHORUS
- PHASER
- TREMOLLO
- ROTARY SP



初期設定

音色ごとにエフェクトの種類(オフも含む)はあらかじめ設定されています。

エフェクトの種類は[EFFECT]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[EFFECT]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[EFFECT]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

操作

[EFFECT]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

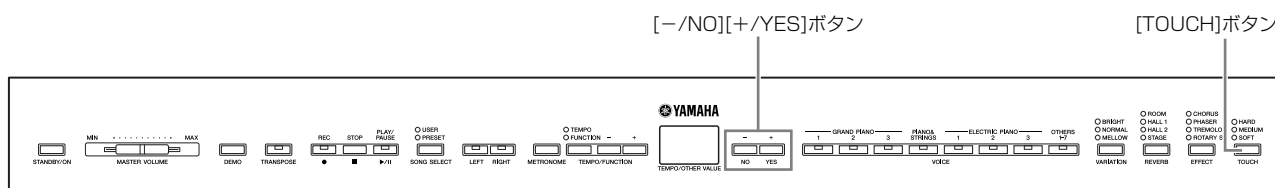
深さ(かかり具合)を変える

[EFFECT]ボタンを押している間は画面にエフェクトの深さの値が表示されます。

音色ごとに標準の深さがあらかじめ設定されています。

[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さ0(効果なし)から20(最大)まで変わります。

タッチ感を変える[TOUCH]



タッチ [TOUCH]

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

ハード
HARD 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

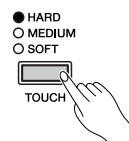
ミディアム
MEDIUM 標準的なタッチです。

ソフト
SOFT 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

フィックスド
FIXED タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

操作

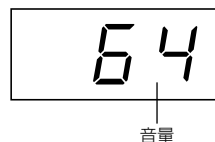
[TOUCH]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。



FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[TOUCH]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。

[TOUCH]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、音量を示す値が1(最小音量)から127(最大音量)まで変わります。初期設定値は64です。



鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD = 「強い」
MEDIUM = 「中間の、中位の」
SOFT = 「やさしい、楽な」
FIXED = 「固定された」

初期設定 MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(51ページ)をご参照ください。

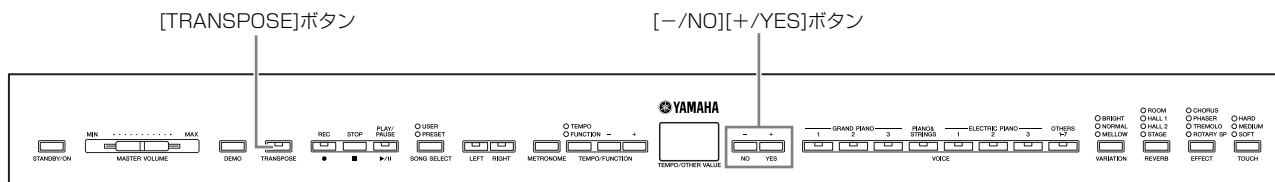
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

タッチの種類は[TOUCH]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[TOUCH]ボタンを押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、[TOUCH]ボタンを離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

トランスポーズ

キー (調) を変える [TRANSPOSE]

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。[TRANSPOSE] ボタンを押すことにより、半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。



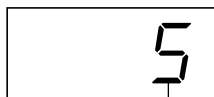
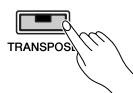
操作

[TRANSPOSE] ボタンを押している間は画面にトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。

[TRANSPOSE] ボタンを押したまま [-/NO] または [+ /YES] を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値で -12 (-1 オクターブ) から 12 (+1 オクターブ) まで変わります。

[TRANSPOSE] ボタンのランプは、[TRANSPOSE] ボタンを押している間点灯します。トランスポーズ量を 0 (ゼロ) 以外に設定したときも、引き続き点灯し続けます。

0 以外に設定したあとは、[TRANSPOSE] ボタンを押すごとに、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。



トランスポーズ量

TRANSPOSE : 移調する

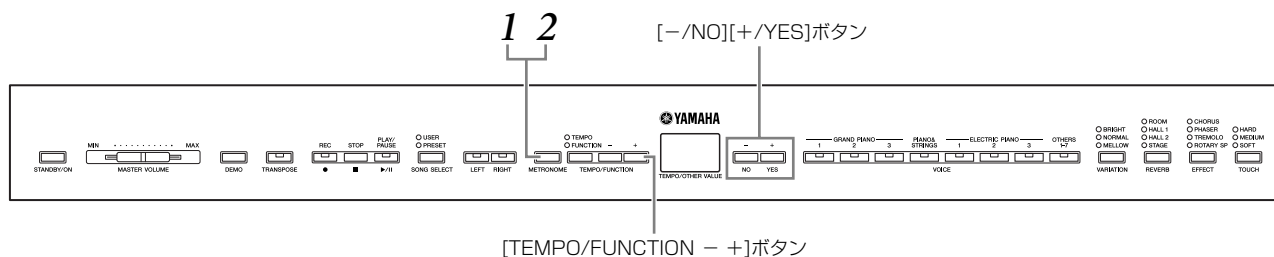
移調 : 曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変えること。

トランスポーズ量

- 12: -12半音(-1オクターブ)
- 0: 標準の音の高さ
- 12: 12半音(+1オクターブ)

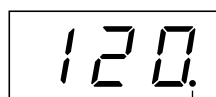
メトロノームを使う[METRONOME]

P-140は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。



1 ^{メトロノーム} [METRONOME]ボタンを押して、メトロノームを鳴らす

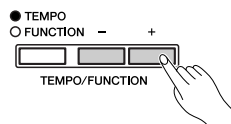
メトロノームが鳴ります。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

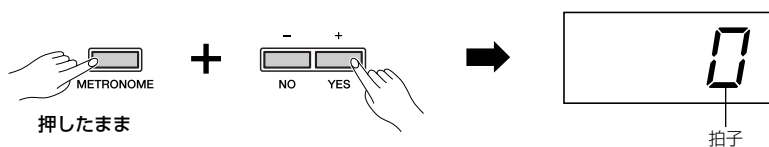
テンポの調節

[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが点灯している状態で、[TEMPO/FUNCTION - +]ボタンを押すとテンポの値(32~280 [1分間の拍数]、初期設定=120)が変わります。



拍子の設定

[METRONOME]ボタンを押している間は画面に拍子が表示されます。
[METRONOME]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、拍子(0~15)が変わります。



[TEMPO/FUNCTION]ボタンのFUNCTIONのランプが点灯している場合は、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、TEMPOのランプを点灯させてください。

メトロノームの音量はファンクション(36、43ページ)で設定できます。

2 ^{メトロノーム} [METRONOME]ボタンを押して、メトロノームを止める

演奏を録音(記録)する

P-140の録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

練習の中で、ご自分の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。

また、2つの録音パートに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

この楽器では、3曲まで録音することができます。この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。

「録音」と「記録」

MDに録音するのとP-140の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

MDでは音そのものが「録音」されますが、P-140の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

P-140の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

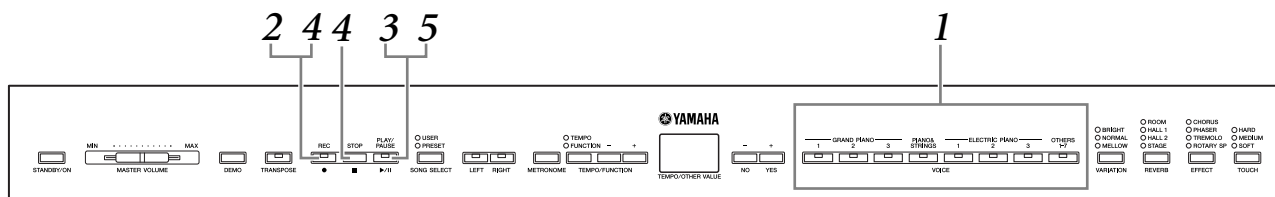
別の録音方法

AUX OUT端子を使ってMDレコーダーなどに接続し、オーディオ録音することもできます。

演奏を簡単に録音する

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、録音パートを指定せずに手軽に録音する方法です。

この方法では、自動的に[RIGHT]に録音されます。



録音済みのパートを消さないために

すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

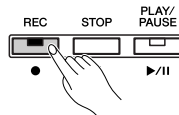
1 音色ボタンを押して、録音に使う音色を選ぶ

必要に応じてそのほかの設定(リバーブやエフェクトなど)も選んでください。

[MASTER VOLUME]スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節することができます。

2 [REC]ボタンを押して、録音モードに入る

[REC]ボタンを押すと、メモリーU01~U03のうちまだ録音されていない番号が自動的に選ばれ、[RIGHT]パートがオンになります。すべてのメモリーが録音済みの場合は、U01~U03のうちU01が選ばれます。



画面にあとどれくらい録音できるかを示す数値(KB)が表示されます。何も録音されていない場合で、65KB(約1,000音符分)です。[PLAY/PAUSE]のランプは、現在のテンポで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

録音できる状態のことを「録音モード」と呼びます。

デモ曲再生中のときは、録音モードに入ることができません。

同じ曲で前回[LEFT]パートを選んでいたら、手順2で[REC]ボタンを押したときに[LEFT]パートがオンになります。

メトロノームを使う

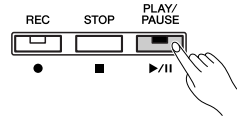
メトロノームを使って録音することもできます。手順2でメトロノームをオンにしてください。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音されるデータの種類については、31ページをご覧ください。

3 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと録音がスタートします。

画面に録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



ペダルを使ってスタートするファンクション(36、42ページ)でAUXペダルをパネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能に切り替えることができます。そうすると、AUXペダルで録音をスタートできます。

録音中に[PLAY/PAUSE]ボタンを押しても、一時停止はしません。

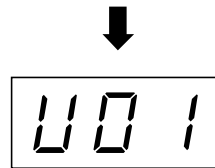
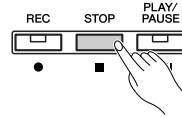
録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合

録音中のパートのランプが赤く点滅しだします。そして記憶残容量がなくなると画面に「Full」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

4 ^{ストップ} [STOP]または^{レコード} [REC]ボタンを押して、録音をストップする

録音をストップすると、「---」が表示され、録音した曲が楽器に自動保存されていることを示します。自動保存が終ると、曲名(U01~U03)が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

⊘ 画面に「---」が表示されている間は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。



曲名(U01~U03)表示

パートのデータを削除するには[PLAY/PAUSE]ボタンで録音をスタートし、何もせず[STOP]ボタンで録音をストップすると、そのパートのデータがすべて削除されます。

5 録音した演奏を聞いてみる

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。

[STOP]ボタンを押すと、再生が止まります。

録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

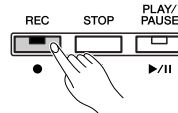
1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す

先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

2 ^{レコード} 再び[REC]ボタンを押して、録音モードに入る

今録音したパートが自動的に録音パートとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、「演奏を簡単に録音する」(前述)の手順3からの操作に従って録音します。

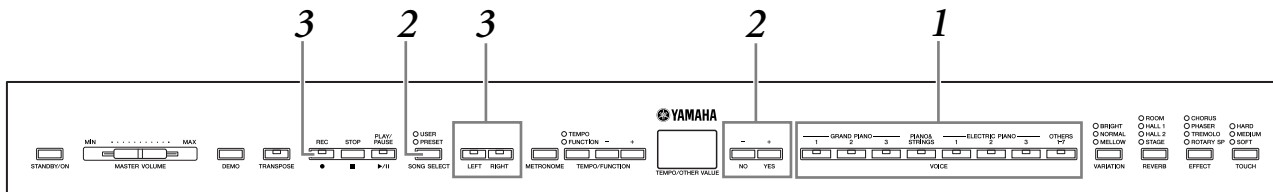


テンポ、拍子、[REVERB]の種類、[EFFECT]の種類の変更は、録音モードに入ったあとで行なってください。

曲の途中から録音し直すことはできません。

ライト レフト RIGHT/LEFTパートに録音する

右手(RIGHT)、左手(LEFT)のパートを選んで、各パートを別々に録音する方法です。右手パートを再生させながら左手パートを録音できますので、連弾曲を1パートずつ録音するのに便利です。



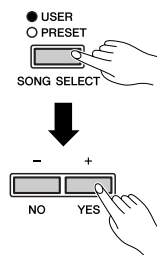
1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2 録音する曲を選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して「^{ユーザー}USER」のランプを点灯させてから、[-/NO][+/YES]ボタンを押して録音する曲を選びます。

! すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。



パートボタンのランプの色
 消灯: データなし
 点灯(緑): データあり
 点灯(赤): 録音指定

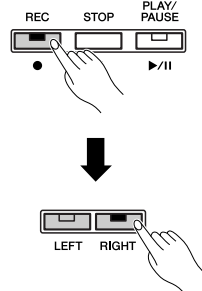
3 録音モードに入る

[REC]ボタンを押してから録音するパートのボタン([RIGHT]/[LEFT])を押します。

指定したパートのランプが赤く点灯します。

画面にあとどれくらい録音できるかを示す数値(KB)が表示されます。何も録音されていない場合で、65KB(約11,000音符分)です。[PLAY/PAUSE]のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。



メトロノームを使う
 メトロノームを使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

テンポ、拍子、[REVERB]の種類、[EFFECT]の種類の変更は、録音モードに入ったあとで行なってください。

前に録音したパートのデータの再生をオフにして録音するには
 再び録音モードに入る前(手順3の前)に、前に録音したパートのボタンを押します。緑のランプが消灯し、再生がオフになります。

録音されるデータの種類については、31ページをご覧ください。

4 指定したパートに録音する

「演奏を簡単に録音する」の手順3からの操作(29ページ)に従って録音します。

録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。下記のように「パートごとに録音されるデータ」と「2つのパートで共通に録音されるデータ」があります。

パートごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ(弾いた音)
- ・ 音色
- ・ ペダル操作(サステイン、ソフト、ソステヌート、エクスプレッション)
- ・ [REVERB]の深さ
- ・ [EFFECT]の深さ
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス
- ・ デュアルデチューン
- ・ デュアルオクターブシフト
- ・ スプリットの音色
- ・ スプリット音量バランス
- ・ スプリットオクターブシフト

2つのパートで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ [REVERB]の種類(オフも含む)
- ・ [EFFECT]の種類(オフも含む)

初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

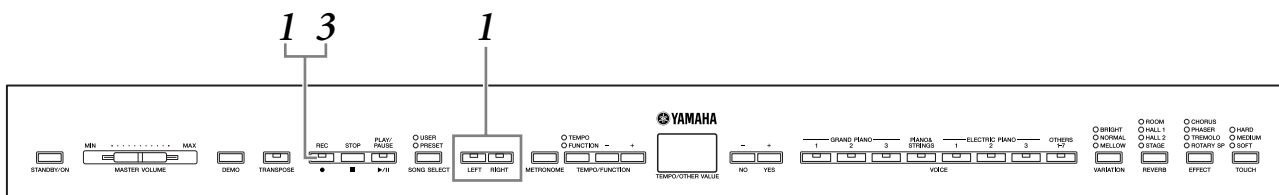
以下のデータの初期値を変更することができます。

パートごとのデータ

- ・音色
- ・[REVERB]の深さ
- ・[EFFECT]の深さ
- ・デュアルの音色
- ・スプリットの音色

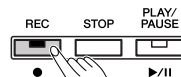
2つのパートに共通のデータ

- ・テンポ
- ・[REVERB]の種類 (オフも含む)
- ・[EFFECT]の種類 (オフも含む)



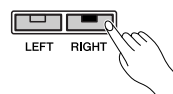
1 レコード [REC]ボタンを押して録音モードに入り、初期値を変更するパートを選ぶ

ランプが赤く点灯します。(2つのパートで共通に録音されるデータはどちらのパートを選んででも変更されます。)



2 変更したい項目をパネルで操作して変更する

たとえば、録音した[ELECTRIC PIANO 1]の音色を[ELECTRIC PIANO 2]に変更したい場合は、ここで[ELECTRIC PIANO 2]ボタンを押します。サステイン/ソフトペダルのかかり具合を変更したい場合は、ここでサステイン/ソフトペダルを踏んだままにします。



初期値変更を中止するには操作2のあと、初期値を変更するパートを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます。(2つのパートで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

3 レコード [REC]ボタンを押して録音モードを抜ける

- ❗ 操作2、3で鍵盤や[PLAY/PAUSE]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

曲を再生する

P-140では、以下の3種類の曲が再生できます。

- **ピアノ50曲(プリセットソング)**
楽器本体に入っているピアノ50曲です。(15ページ)
- **ユーザーソング**
この楽器で録音し、楽器本体に保存されている曲です。
- **外部ソング**
ソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使って、コンピューターから楽器に保存した曲です。これらの曲は、ユーザーソングとは別のメモリーに保存されます。この楽器では255曲(曲番号001~255)まで選択できます。
下記のURLから「ミュージックソフトダウンローダー」をダウンロードして、お使いください。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

ミュージックソフトダウンローダーの操作については詳しくは、ミュージックソフトダウンローダーのヘルプをご参照ください。

なお、コンピューターから楽器に曲が保存できない場合は、ファイル名を英数字のみに変更して再度試してください。

この楽器が対応しているシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)

- **SMF (Standard MIDI File) フォーマット0と1**
スタンダード ミディ ファイル
代表的なシーケンスフォーマットのひとつです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があります。多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。
また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。

デモ曲再生中のときは、曲が再生できません。

この楽器に入っている音色以外の音色を含む曲(XGやGMソングなど)を再生した場合、元の曲の音色が正確に再現されないことがあります。その場合、曲再生チャンネル選択(42ページ)を「1&2」に切り替えると3~16チャンネルの再生が消音され、より自然に聞こえることがあります。

再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

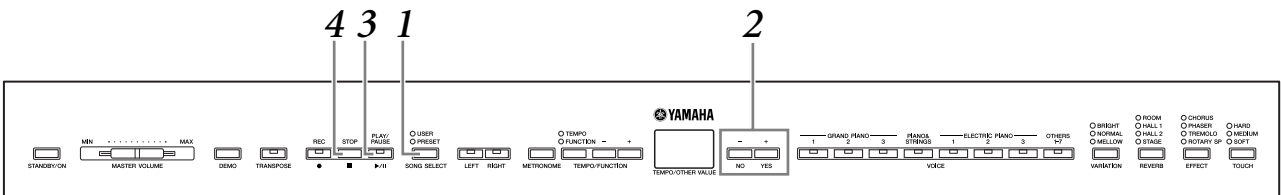
再生中に[REVERB]の種類を切り替えた場合

再生中に[REVERB]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

再生中に[EFFECT]の種類を切り替えた場合

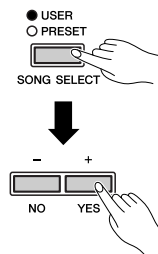
再生中に[EFFECT]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがかからなくなる場合があります。

ユーザーソング/外部ソングを再生する



1 **ソングセレクト**
[SONG SELECT]ボタンを押して
ユーザー
[USER] のランプを点灯させる

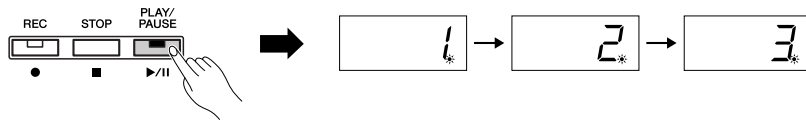
2 [-/NO][+/YES]ボタンを押して、
ユーザーソング(Uxx*)/外部ソング(XXX*)
を選ぶ



*ユーザーソングの曲名の最初に付いている「U」は「User」の「U」です。
xxは、曲番号を示しています。

3 プレイ/ポーズ [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生がスタート

スタート後、画面に再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

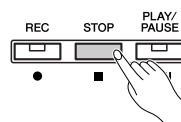
テンポの調節

再生スタート前でも再生中でも、[TEMPO/FUNCTION -+]ボタンを押してテンポを変更することができます。[-][+]ボタンを同時に押すと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

4 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、[STOP]ボタンを押します。

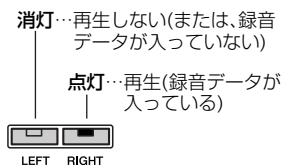
曲を一時停止させるときは、曲の再生中に[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。



パートの再生オン/オフ

録音したデータが入っているパートボタン ([RIGHT][LEFT]ボタンの片方または両方)のランプが緑に点灯します。

ランプが点灯しているパートのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのパートのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。



録音データがないときは [PLAY/PAUSE]ボタンを押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

外部ソングは、繰り返し再生できます。

ALL (オール):
外部ソングを順番に、ストップするまで連続再生します。

rand (ランダム):
外部ソングを順不同に、ストップするまで連続再生します。

パートの再生オン/オフの切り替えは
再生前でも再生中でもできます。

再生をオフにしたパートの音量は
再生をオフにしたパートの音量を調節できます(43ページ)。

各種の便利な設定をする [FUNCTION]

P-140では、「音の高さを微調整」したり、「メトロノームの音量を設定」したりなど、いろいろ便利な設定ができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

ファンクション=機能

まず、ファンクション一覧表を見てください。

ファンクションには、大項目が9個(F1~F9)あります。

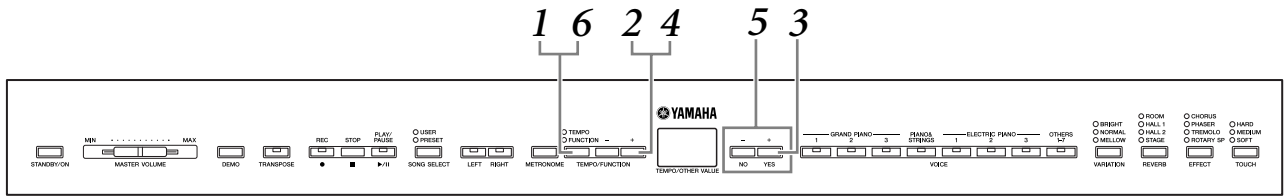
大項目の中には、小項目をいくつか持つものもあります。

ファンクション一覧

大項目	小項目	表示	ページ
音の高さを微調整(チューニング)	—	F1.	38
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	39
	基音の設定	F2.2	39
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	40
	2音色の音の高さを微妙にずらす設定	F3.2	40
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	40
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	40
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	40
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	40
	初期設定に戻す操作	F3.7	40
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定	F4.1	41
	2音色の音量バランスの設定	F4.2	41
	右側音色の設定	F4.3	41
	左側音色の設定	F4.4	41
	右側音色のオクターブシフトの設定	F4.5	41
	左側音色のオクターブシフトの設定	F4.6	41
	右側音色のエフェクトの深さの設定	F4.7	41
	左側音色のエフェクトの深さの設定	F4.8	41
	サステインペダルの有効域の設定	F4.9	41
	初期設定に戻す操作	F4.A	41
その他の諸設定	AUXペダル機能の設定	F5.1	42
	ソフトペダル効果の深さの設定	F5.2	42
	共鳴効果の深さの設定	F5.3	42
	キーオフ音の音量設定	F5.4	42
	曲再生チャンネル選択	F5.5	42
	サステインペダルの極性切り替え	F5.6	42
	AUXペダルの極性切り替え	F5.7	42
メトロノーム音量の設定	—	F6.	43
曲のパート再生オフ時の音量設定	—	F7.	43
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F8.1	43
	MIDI受信チャンネルの設定	F8.2	43
	ローカルコントロールオン/オフの設定	F8.3	43
	プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	F8.4	44
	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	F8.5	44
	セットアップデータのMIDI送信	F8.6	44
	イニシャルセットアップ送信	F8.7	44
バックアップオン/オフの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F9.1	45
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F9.2	45
	音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定	F9.3	45
	その他の項目のバックアップ設定	F9.4	45

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。
(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)

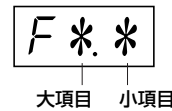
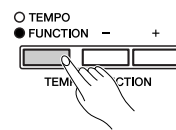


1 テンポ / ファンクション [TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、ファンクションに入る

FUNCTIONのランプが点灯し、ファンクション画面が表示されます。

ファンクションの設定をしていない場合は、ファンクション画面に **F 1** が表示されます。

すでにファンクションの設定をした場合は、最後に設定したファンクションの番号が表示されます。



デモ曲/曲(ピアノ50曲/ユーザーソング/外部ソング)の再生中のときと、曲の録音中はファンクションに入ることはできません。

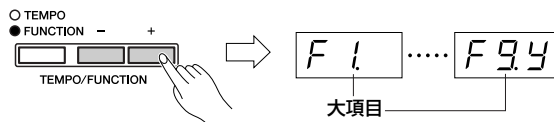
手順 2~5でファンクションの操作を中止したいときは [FUNCTION]ボタンを押せばいつでもファンクションから抜けることができます。

2 大項目を選ぶ

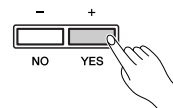
[TEMPO/FUNCTION - +]ボタンでファンクションの大項目(F1~F9)を選びます。

大項目F1、F6、F7は小項目がないので、手順5に進みます。

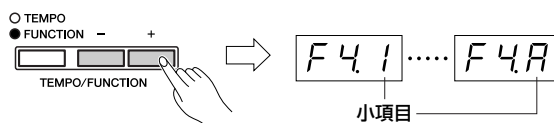
小項目がある場合、画面は **F * Y** になります。「Y」は小項目がある場合に表示します。



3 (小項目がある場合) ^{イエス} [+ / YES]ボタンを押す



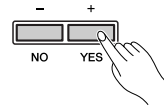
4 テンポ / ファンクション [TEMPO/FUNCTION - +]ボタンでファンクションの小項目を選ぶ



このイラストでは、F4の小項目を示しています。

5 ^{ノー} [-/NO] [^{イエス}+ /YES]ボタンで、オン/オフの設定、種類の設定、数値の設定をする

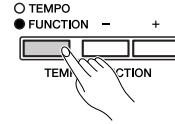
[-/NO] [+ /YES]を同時に押すと初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻る場合があります。



項目を選んだあと、最初に [-/NO] [+ /YES]ボタンを押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

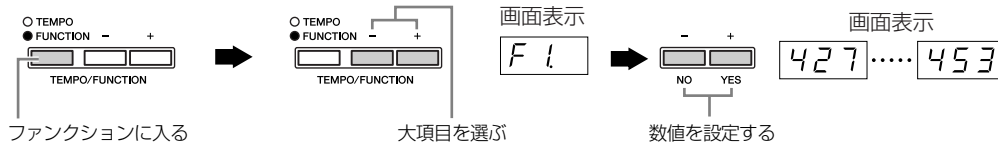
6 ^{テンポ / ファンクション} [TEMPO/FUNCTION]ボタンを押してファンクションから抜ける

TEMPOのランプが点灯し、画面がテンポ表示に戻ります。

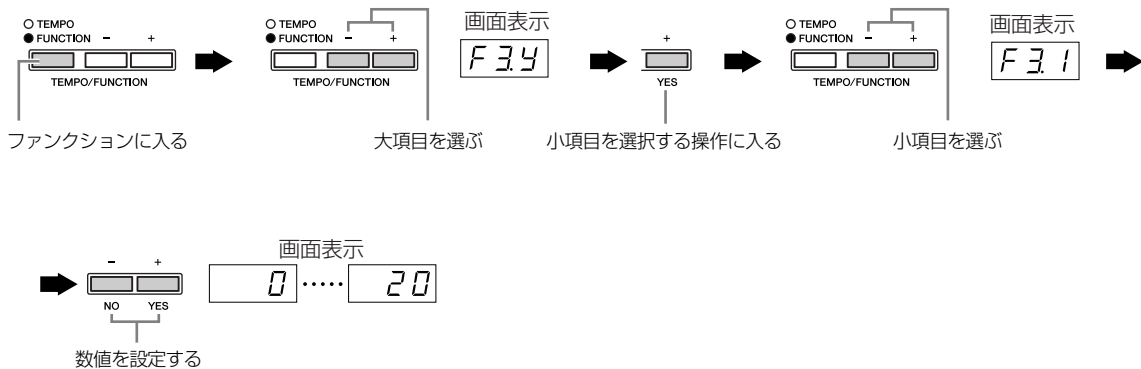


●操作例

F1. 「音の高さの微調整」 (「大項目」 → 「値を設定」 の場合)



F3.1 「(デュアルの)2音色の音量バランスの設定」 (「大項目」 → 「小項目」 → 「値を設定」 の場合)



各ファンクション項目の説明

ここでの各項目の説明は、37ページの手順5に該当します。

F1. 音の高さの微調整(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

[-/NO] [+ /YES]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さを^{ヘルツ}Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

427 ... 440 ... 453

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
440.	440.2
440.	440.4
440.	440.6
440.	440.8

設定範囲：
427.0～453.0 (Hz)
初期設定：
440.0 (Hz)

Hz(ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

鍵盤を使った設定方法

ファンクション画面を呼び出さなくても、鍵盤を押さえることでチューニングができます。

音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

初期設定に戻す

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

鍵盤名は、左端の白鍵がA-1、右端の白鍵がC7となっています。

上記操作中、画面がHz表示(427 ... 453)に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。

約1Hz単位で音の高さを上下させる

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、[-/NO]または[+/YES]ボタンを押す。

初期設定に戻す

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、[-/NO] [+/YES]ボタンを同時に押す。

上記操作中、画面がHz表示(427 ... 453)に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

7種類の音律(調律法)が用意されています。

F2.1 音律(調律法)の種類の設定

- 設定範囲：1 平均律
 2 純正律(長調)
 3 純正律(短調)
 4 ピタゴラス音律
 5 中全音律
 6 ヴェルクマイスター音律
 7 キルンベルガー音律
- 初期設定：1 平均律

平均律 (Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament) (Major)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

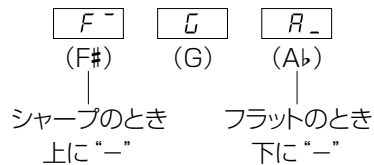
F2.2 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲：C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B

初期設定：C

- 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアル(20ページ)での各種設定をします。
2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

音色がデュアルになっていない場合、画面が **F3-** になり、[+/YES]ボタンを押しても反応しません。この場合は、2つの音色ボタンを同時に押して、音色をデュアルにします。

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲：0~20 (20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定：音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音の高さを微妙にずらす設定

設定範囲：-10~0~10 (+方向で第1音色の音の高さが高く、第2音色の音の高さが低くなる。
-方向で第2音色の音の高さが高く、第1音色の音の高さが低くなる。)

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

初期設定：音色の組み合わせごと

2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲：-1、0、1

初期設定：音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲：0~20

初期設定：音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色を別々に設定します。

エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

- 「第1音色」「第2音色」については、20ページをご覧ください。

F37 初期設定に戻す操作

[+/YES]ボタンを押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

ショートカット操作

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと直接ファンクションの **F3*** に入ることができます。

F4. スプリットの諸設定

スプリット(21ページ)での各種設定をします。
左右の音色を設定したり、スプリットポイントを変更したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。

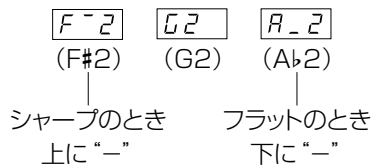
音色をスプリットにしてから(21ページ)、ファンクションに入ってください。スプリットになっていない場合は、画面が **F4-** になり、[+/YES]ボタンを押しても反応しません。ファンクションに入ってから、スプリットを選ぶことはできませんので、ファンクションを一度抜けてからスプリットを選んでください。

F41 スプリットポイントの設定

設定範囲：全鍵盤
初期設定：F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

- [-/NO] [+/YES]ボタンの代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。
- スプリットポイントの鍵盤名表示の例



F42 2音色の音量バランスの設定

設定範囲：0~20 (20に近づくほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定：音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

音色の組み合わせごとに設定されます。

F43 右側音色の設定

設定範囲：1~13
初期設定：1

右側音色の設定をします。
13音色の中から選ぶことができます。(51ページの「音色一覧」をご参照ください。)

F44 左側音色の設定

設定範囲：1~4
初期設定：1

左側音色の設定をします。
4音色の中から選ぶことができます。(51ページの「音色一覧」をご参照ください。)

F45 右側音色のオクターブシフトの設定

F46 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲：-1、0、1
初期設定：音色の組み合わせごと

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。
音色の組み合わせごとに設定されます。

F47 右側音色のエフェクトの深さの設定

F48 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲：0~20
初期設定：音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。
エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)
音色の組み合わせごとに設定されます。

F49 サステインペダルの有効域の設定

設定範囲：^{オール}ALL(両音色)、1(右側の音色)、2(左側の音色)
初期設定：ALL

サステインペダル効果を両音色にかけるか(ALL)、右側音色にだけかけるか(1)、左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

F4R 初期設定に戻す操作

[+/YES]ボタンを押すと上記すべての設定がその音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

F5. その他の諸設定

AUXペダルの機能を切り替えたり、サステインペダルの共鳴効果の深さを設定します。曲再生チャンネルの選択もできます。

F5.1 AUXペダル機能の設定

設定範囲:

1 (ソフトペダル)

ペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

2 (ソステヌートペダル)

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

オルガンやストリングス、クワイアの音色では…

ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

3 (エクスプレッションペダル)

演奏中に音の強弱を付けることができます。

4 ([PLAY/PAUSE])

曲の再生/一時停止をコントロールします。パネルの[PLAY/PAUSE]と同じ機能になります。

初期設定: 1(ソフトペダル)

F5.2 ソフトペダル効果の深さの設定

設定範囲: 1~5

初期設定: 3

ソフトペダル効果の深さを設定します。

F5.3 共鳴効果の深さの設定

設定範囲: 0~20

初期設定: 12

[GRAND PIANO 1、3]の音色でサステインペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

F5.4 キーオフ音の音量設定

設定範囲: 0~20

初期設定: 10

[GRAND PIANO 1、3][HARPSICHORD][E.CLAVICHORD]の音色で、キーオフ音(鍵盤を離れたときの微妙な発音)の音量を設定します。

F5.5 曲再生チャンネル選択

設定範囲: ^{オール}ALL、1&2

初期設定: ALL

曲再生チャンネル選択は、外部ソングに関してのみ設定できます。(プリセットソングやご自分で録音した曲については設定できません。)曲再生で再生させるチャンネルを選びます。「ALL」では、チャンネル1~16すべてが再生されます。「1&2」では、チャンネル1と2だけが再生され、3~16チャンネルはMIDI送信されます。

F5.6 サステインペダルの極性切り替え

F5.7 AUXペダルの極性切り替え

設定範囲: 1、2

初期設定: 1

[SUSTAIN PEDAL]や[AUX PEDAL]に接続したペダルによって、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合に切り替えてください。

ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

サステインペダルの極性を2にして、電源が入ったままペダルを抜くと、そのあともサステイン効果がかかったままの状態になります。その場合は一度電源を切り、入れ直してください。

F6. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。
メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

設定範囲：1～20

初期設定：10

ショートカット操作

[METRONOME]ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと直接ファンクションの **[F6]** に入ることができます。

F7. 曲のパート再生オフ時の音量設定

曲の再生時、再生をオフにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

選択範囲：0～20

初期設定：5

この設定は、デモ曲には使えません。

F8. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての簡単なご紹介が「MIDIについて」(46ページ)にあります。ご参照ください。

[F8.1] MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-140からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲：1～16、オフ(送信しない)

初期設定：1

デュアルのときの第2音色、スプリットのときの左側音色はここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

曲データはMIDI送信されません。ただし、外部ソングで曲再生チャンネル選択(42ページ)を「1&2」に切り替えた場合、3～16チャンネルがMIDI送信されます。

[F8.2] MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-140がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲：ALL、1&2、1～16

初期設定：ALL

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。
この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、P-140で受信して再生させることができます。

「1&2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、P-140本体で再生することができます。

P-140では、P-140本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

[F8.3] ローカルコントロールオン/オフの設定

通常、P-140の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもP-140からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、P-140では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

選択範囲：オン/オフ

初期設定：オン

F84 プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばP-140からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(P-140のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをP-140が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」(55ページ)をご覧ください。

選択範囲：オン/オフ
初期設定：オン

F85 コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にサステインペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。たとえばP-140からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(P-140でサステインペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをP-140が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

P-140がコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDIデータフォーマット」(55ページ)をご覧ください。

選択範囲：オン/オフ
初期設定：オン

F86 セットアップデータのMIDI送信

P-140のパネル設定状態を含むセットアップデータを、MIDI接続したシーケンサーなどに送信します。

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
3. ファンクションに入って **F86** を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。
送信が終わると、**End** が表示されます。

送信される「セットアップデータ」の内容

「MIDIデータフォーマット」(56ページ)のパネルデータ詳細に掲載されている内容が送信されます。

送信したデータの受信方法

1. データを送信した機器とP-140をMIDI接続します。
2. データを送信した機器側で送信操作をします。
自動的にP-140がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F87 イニシャルセットアップ送信

MIDI接続したシーケンサーなどにセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
3. ファンクションに入って **F87** を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。
送信が終わると、**End** が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- 音色
- [REVERB]の種類
- [REVERB]の深さ
- [EFFECT]の種類
- [EFFECT]の深さ
- スプリットポイント
- チューニング(音の高さの微調整)値(F1)
- 2音色の音の高さを微妙にずらす設定の値(F3.2)

F9. バックアップオン/オフの設定

バックアップとは、ご自分で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップをオンにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをオフにしておくと、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ります。(初期設定一覧が52ページに掲載されています。)

ただし「本体内に録音された演奏データ」、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は、電源を切っても消えません。

「本体内に録音された演奏データ」については、外部コンピューターにバックアップをとります。詳細は、49ページをご参照ください。

以下の項目ごとにバックアップのオン/オフを設定します。各項目のバックアップグループは、楽器の各ファンクション(音色関連、MIDI関連、音の高さ、音律関連、その他の項目)に分かれています。

F9.1 音色関連項目のバックアップ設定

設定範囲：オン/オフ

初期設定：オフ

設定内容：

- 音色選択(デュアル、スプリットを含む)
- デュアルの諸設定(F3* の設定内容)(音色の組み合わせごと)
- スプリットの諸設定(F4* の設定内容)(音色の組み合わせごと)
- リバーブのオン/オフ、種類と深さ(音色ごと)
- エフェクトのオン/オフ、種類と深さ(音色ごと)
- タッチの設定(FIXED時の音量も含む)
フィックス
- メトロノームの拍子と音量(音量は、 F5 の設定内容)
- 曲のパート再生オフ時の音量設定(F7 の設定内容)

F9.2 MIDI関連項目のバックアップ設定

設定範囲：オン/オフ

初期設定：オン

設定内容：

- MIDI機能の諸設定(F8* の設定内容)
(F8.6 F8.7 を除く)

F9.3 音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

設定範囲：オン/オフ

初期設定：オン

設定内容：

- トランスポーズの設定
- 音の高さの微調整(F1 の設定)
- 音律(調律法)の種類と基音の設定(F2* の設定内容)

F9.4 その他の項目のバックアップ設定

設定範囲：オン/オフ

初期設定：オン

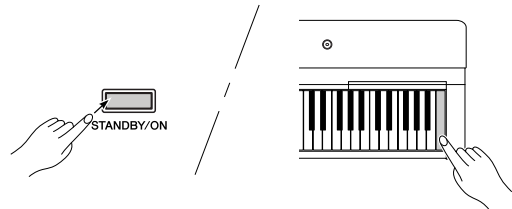
設定内容：

- その他の諸設定(F5* の設定)
- バリエーションの設定

初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻すには

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をオンにします。

この操作で、F1からF9のすべての項目が初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ります。また、本体内に録音された演奏データも消えます。初期設定一覧が52ページに掲載されています。

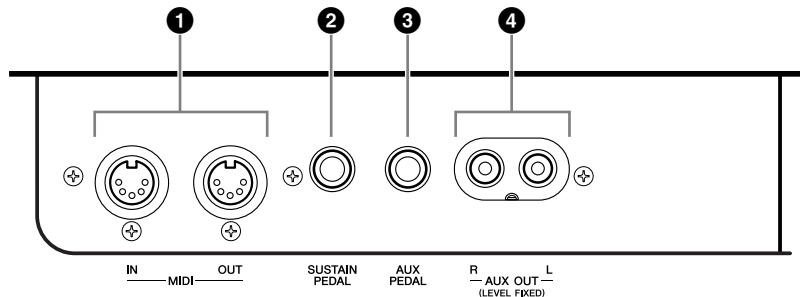


- ⊘ 楽器の画面に「[Lr]」が表示されます。この表示が出ている間は、電源を切らないでください。「[Lr]」が表示されているときに電源を切ると、楽器本体が故障するおそれがあります。

他の機器と接続する

端子に接続する

- ❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



1 MIDI [IN][OUT]端子

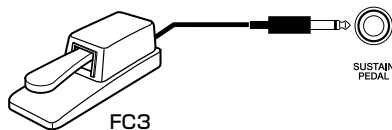
MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。
MIDI [IN]MIDIデータを受信する端子です。
MIDI [OUT]MIDIデータを送信する端子です。
詳しくは48ページの「コンピューターと接続する」をご覧ください。

MIDIについて

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子ピアノから外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子ピアノをコントロールしたりすることができます。

2 SUSTAIN PEDAL端子

付属のフットペダルFC3を接続する端子です。



- ❗ ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。
- ⊘ ペダルを踏みながら電源を入れないでください。踏みながら電源を入れると、オン/オフが逆になります。

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できるようになります。共通に扱えるデータや命令は、58ページの「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。

接続したペダルによって踏んだ時の効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合は「サステインペダルの極性切り替え(42ページ)」をご参照ください。

③ エーユーエックス ペダル AUX PEDAL端子

別売のフットスイッチFC4/FC5や、フットコントローラー FC7を接続する端子です。ソフトペダル機能などいろいろな機能を割り当てて使用することができます。機能の割り当てはファンクションで行ないます。(42ページ)

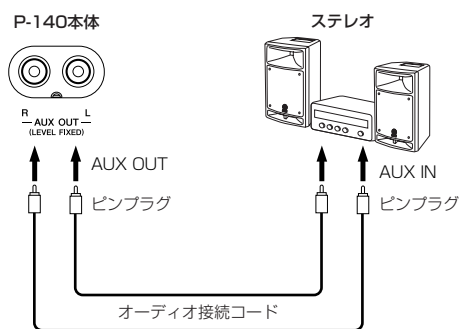


接続したペダルによって踏んだ時の効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合は「AUXペダルの極性切り替え(42ページ)」をご参照ください。

④ エーユーエックス アウト レベルフィックス AUX OUT [R][L](LEVEL FIXED)端子(ピン端子)

P-140をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、MDレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

❗ P-140のAUX OUTを使う場合、電源を入れるときはP-140→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→P-140の順に行なってください。



P-140の[MASTER VOLUME]を気にせず、オーディオ機器で音量を調節したり、外部機器で録音したりできます。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

P-140の[MASTER VOLUME]はAUX OUT(LEVEL FIXED)からの出力音には効きません。

コンピューターと接続する

MIDI端子とコンピューターを接続して、コンピューターとデータをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。コンピューターとデータをやりとりするには、USB-MIDIインターフェイス機器(UX16、UX96、UX256など)のドライバーとミュージックソフトダウンローダーを、コンピューターにインストールしてください。

P-140とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

- コンピューターのUSB端子と、USB-MIDIインターフェイス機器を使った接続方法
- MIDIインターフェイス機器と、P-140のMIDI端子を使った接続方法

詳しくは以下をご覧ください。

- !** コンピューターと接続する場合は、最初にP-140の電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、そのあとP-140の電源を入れてください。

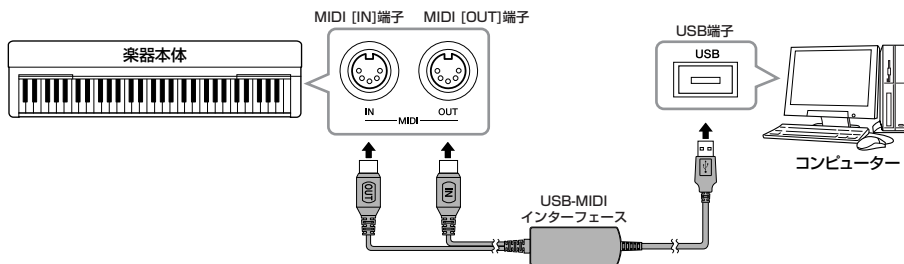
USB-MIDIインターフェイス機器(UX16、UX96、UX256など)のドライバーやソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」は、下記URLからダウンロードできます。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd>

コンピューターのUSB端子と、USB-MIDIインターフェイス機器を使った接続方法

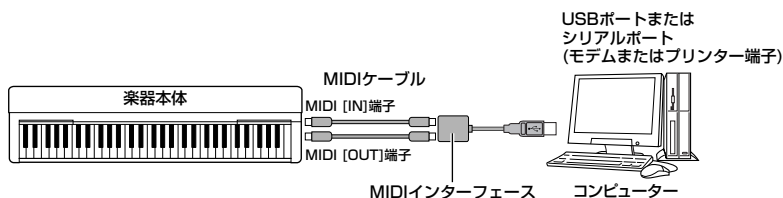
コンピューターのUSB端子と、USB-MIDIインターフェイス機器(UX16、UX96、UX256など)をUSBケーブルで接続します。USB-MIDIインターフェイス機器に付属のドライバーをインストールします。USB-MIDIインターフェイス機器とP-140を接続します。

詳しくは、USB-MIDIインターフェイス機器に付属の取扱説明書をご参照ください。



MIDIインターフェイス機器とP-140のMIDI端子を使った接続方法

MIDIインターフェイス機器を通じてP-140のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



YAMAHA MIDIケーブル
 MIDI 01 (長さ 1m)
 MIDI 03 (長さ 3m)
 MIDI 15 (長さ 15m)

コンピューターへデータのバックアップ

本体に保存したデータの万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターにバックアップとして保存することをおすすめします。コンピューターへの保存は、ヤマハのホームページから「ミュージックソフトダウンローダー」をダウンロードしてお使いください。

バックアップ対象となるデータ

●パネル設定とユーザーソング

パネル設定とは、45ページの「バックアップオン/オフの設定」でバックアップをオン/オフできる設定と同じ設定です。パネル設定とユーザーソングをまとめてひとつのファイルとして保存します。

●コンピューターから楽器に保存した曲

ソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使用して、コンピューターから楽器に保存した曲です。

1 USB-MIDIインターフェース機器のドライバーとミュージックソフトダウンローダーをコンピューターにインストールします。

そのあと、楽器とコンピューターを接続します。

楽器とコンピューターとの接続については、48ページをご参照ください。

2 ミュージックソフトダウンローダーを使って、下記の操作をします。

- ・ **パネル設定とユーザーソングをコンピューターに保存する**
「電子楽器」→「System Drive」の中にある「P-140.BUP」をコンピューターに保存します。
- ・ **楽器に保存した曲をコンピューターに保存する**
「電子楽器」→「Flash Memory」の中にある曲データをコンピューターに保存します。

ミュージックソフトダウンローダーの操作について詳しくは、ミュージックソフトダウンローダーのヘルプをご参照ください。

設定を元に戻すときは、コンピューターに保存したファイルを「電子楽器」の中のそれぞれのフォルダーに戻します。

USB-MIDIインターフェース機器(UX16、UX96、UX256など)のドライバーやソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」は、下記URLからダウンロードできます。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd>

楽器とコンピューターを接続してミュージックソフトダウンローダーを使っているときは、楽器の画面に「con (computer connection)」が表示されます。この表示が出ている間は、楽器の操作ができません。

楽器が以下の状態のときは、ミュージックソフトダウンローダーとの接続ができません。

- ・ デモ曲の再生中
- ・ 曲再生中
- ・ 録音中

パネル設定とユーザーソング(P-140.BUP)は、コンピューターに保存した後も、楽器本体に残ります。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
P-140の電源が入らない。	電源アダプターが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(12ページ)。
[STANDBY/ON]スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
P-140から雑音が出る。	P-140の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	P-140の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。P-140の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]スライダーを上げてください(12ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(43ページ)。
サステインペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN PEDAL]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[SUSTAIN PEDAL]端子に確実に差し込んでください(46ページ)。
[SUSTAIN PEDAL]や[AUX PEDAL]に接続したペダルによって、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる。	ペダルの極性が反転しています。	ファンクションF5.6、F5.7で極性の切り替えをしてください。(36、42ページ)
演奏中に[VARIATION]ボタンで音質を切り替えると、音切れがする。	切り替え時に、雑音が入らないように音を切っています。	異常ではありません。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音のできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	P-140の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

音色一覧

音色		ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング *1	キーオフ サンプリング *2	音色のご紹介
1	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	○	○	○	○	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。3段階のダイナミックサンプリング(*1)、サステインペダル使用時の音色変化、鍵盤を離れたときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
2	GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
3	GRAND PIANO 3 (グランドピアノ3)	○	○	○	○	暖かみのあるメロウなピアノの音です。クラシック音楽に最適です。
4	PIANO & STRINGS (ピアノ&ストリングス)	○	○	○	—	グランドピアノ音色とストリングス音色のデュアル音色です。オーケストラバックのゆったりとしたピアノ曲に最適です。
5	ELECTRIC PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	—	○	○	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
6	ELECTRIC PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	—	○	○	—	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
7	ELECTRIC PIANO 3 (エレクトリックピアノ3)	—	○	○	—	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
8	CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
9	JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽で良く用いられます。
10	STRINGS (ストリングス)	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
11	HARPSICHORD (ハープシコード)	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
12	E.CLAVICHORD (エレクトリッククラビコード)	—	○	—	○	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
13	VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
14	SPLIT (スプリット)	*3	*3	*3	*3	左手がベース、右手が上記13音色から選べる音色です。ファンクションによって、いろいろな組み合わせが楽しめます。

*1: ダイナミックサンプリングとは

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

*2: キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

*3: 設定音色に依存します。

●スプリット左側音色一覧

音色		ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング *1	キーオフ サンプリング *2	音色のご紹介
1	WOOD BASS (ウッドベース)	—	○	—	—	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
2	BASS & CYMBAL (ベース&シンバル)	—	○	—	—	シンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
3	E.BASS 1 (エレクトリックベース1)	—	○	—	—	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
4	E.BASS 2 (エレクトリックベース2)	—	○	—	—	フレッドレスベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。

初期設定一覧

初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)は以下のとおりです。

項目	初期設定値	バックアップグループ
音色選択	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	F9.1
デュアル機能	オフ	
スプリット機能	オフ	
スプリット右側音色	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	
スプリット左側音色	WOOD BASS (ウッドベース)	
バリエーションの種類	NORMAL (ノーマル)	F9.4
リバーブの種類	音色ごと	F9.1
リバーブの深さ	音色ごと	
エフェクトの種類	音色ごと	
エフェクトの深さ	音色ごと	
タッチの種類	MEDIUM (ミディアム)	
タッチがFIXED (フィクスト)のときの音量	64	
メトロノーム	オフ	—
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	F9.1
テンポ	120	—
トランスポーズ	0	F9.3

「—」の項目はバックアップはありません。

* バックアップグループについては、45ページをご参照ください。

ファンクションの初期設定

表示	項目	初期設定値	バックアップグループ
F1.	音の高さ	A3=440Hz	F9.3
F2.1	音律	1(平均律)	
F2.2	基音	C	
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F9.1
F3.2	デュアル 音の高さのずらし方の設定	音色の組み合わせごと	
F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F3.5、F3.6	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと	
F4.1	スプリット ポイント	F#2	
F4.2	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと	
F4.3	右側音色の設定	1	
F4.4	左側音色の設定	1	
F4.5、F4.6	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F4.7、F4.8	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと	F9.4
F4.9	スプリット サステインペダルの有効域	ALL (オール)	
F5.1	AUXペダル機能	1 (ソフトペダル)	
F5.2	ソフトペダルの効果の深さ	3	
F5.3	共鳴効果の深さ	12	
F5.4	キーオフ音の音量	10	
F5.5	曲再生チャンネル選択	ALL	
F5.6	サステインペダルの極性切り替え	1	
F5.7	AUXペダルの極性切り替え	1	
F6.	メトロノーム音量	10	F9.1
F7.	曲のパート再生オフ時の音量	5	
F8.1	MIDI送信チャンネル	1	F9.2
F8.2	MIDI受信チャンネル	ALL	
F8.3	ローカルコントロール	オン	
F8.4	プログラムチェンジ送受信	オン	
F8.5	コントロールチェンジ送受信	オン	
F9.	バックアップの設定	音色関連項目の設定のみ オフ、その他の設定はオン	*

「*」の項目は常にバックアップされます。

メッセージ一覧

表示	表示内容
<i>Clr*</i>	楽器を初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。
<i>con</i>	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに表示されます。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
<i>EO2</i>	曲データが壊れています。
<i>EO4</i>	ファイルが大きすぎてロードできません。
<i>End</i>	処理が終わりました。
<i>Err</i>	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに、MIDI/USBケーブルを抜くと表示されます。
<i>FCL*</i>	処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。ご自分で録音した曲や、コンピューターから取り込んだ曲が消去されています。
<i>Full</i>	(曲の録音中に)楽器本体のメモリー容量がいっぱいになりました。
<i>ny</i>	操作を実行しますか？

⊘ 楽器の画面に「*Clr*」「*FCL*」が表示されているときは、絶対に電源を切らないでください。「*Clr*」「*FCL*」が表示されているときに電源を切ると、楽器本体が故障するおそれがあります。

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH]→[kkH]→[vvH]
 9nH = ノートオン/オフ・イベント(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.
 (送信: 09H~7FH=A-2~C8)
 (受信: 00H~7FH=C-2~G8)
 vvH = ペロシティ
 (ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH]→[kkH]→[vvH](受信のみ)
 8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.(00H~7FH=C-2~G8)
 vvH = ペロシティ

2. コントロールチェンジ

[BnH]→[ccH]→[vvH]
 BnH = コントロール・チェンジ(n=チャンネルNo.)
 ccH = コントロールNo.
 vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
 00Hバンク選択MSB 00H: ノーマル
 20Hバンク選択LSB 00H~7FH

※ プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) メインボリューム

ccH パラメーター 値(vvH)
 07Hボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
 0BHエクスプレッション 00H~7FH

4) サステインペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 40Hサステイン 00H~7FH

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 42Hソステヌート 00H~3FH: オフ,
 40H~7FH: オン

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 43Hソフトペダル 00H~3FH: オフ,
 40H~7FH: オン

7) エフェクト 1 デプス (リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5BHエフェクト1デプス 00H~7FH

※ リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定しません。

8) エフェクト 4 デプス (バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5EHエフェクト4デプス 00H~7FH

9) RPN

65H RPN MSB
 64H RPN LSB
 06H データエントリー MSB
 26H データエントリー LSB
 60H データ Increment
 61H データ Decrement

※ RPNでコントロールできるもの
 ・コースチューン
 ・ファインチューン
 ・ピッチベンドレンジ

3. モード・メッセージ

[BnH]→[ccH]→[vvH]
 BnH = コントロール・イベント(n=チャンネルNo.)
 ccH = モード・メッセージNo.
 vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 78Hオール・サウンド・オフ 00H

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
 79Hリセット・オール・コントローラー 00H

※ 以下のようにリセットされます。
 コントローラー 設定値
 エクスプレッション 127(最大)
 サステインペダル 0(オフ)
 ソステヌート 0(オフ)
 ソフトペダル 0(オフ)

3) ローカルコントロール (受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7AHローカルコントロール 00H(オフ), 7FH(オン)

4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 7BHオール・ノート・オフ 00H

※ 該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、サステインもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5) オムニ・オフ (受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7CHオムニ・オフ 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないません。

6) オムニ・オン (受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7DHオムニ・オン 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないません。

7) モノ (受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7EHモノ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないません。

8) ポリ (受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7FHポリ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないません。

◆補足

1. コントロールチェンジオン/オフがオフされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。
2. ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。)
3. ボイス・バンク(MSB, LSB)受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の音色を決めます。
4. 本機は常にポリ・モードであり、モノ/ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH]→[ppH]
 CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ppH = プログラムチェンジNo.

※ プログラムチェンジオン/オフがオフされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付表1>をご参照ください。

5. ピッチベンドチェンジ

[EnH]→[ccH]→[ddH]
 ccH = LSB
 ddH = MSB

6. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

※ 200msecごとに送信します。
 ※ 一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

※ 96分タイミングで送信します。
 ※ エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信します。

3) スタート

[FAH]

※ ソングスタート時に送信します。
 ※ 受信するとソングがスタートします。
 ※ クロックがInternalに設定されているときは受信しません。

4) ストップ

[FCH]

※ ソングストップ時に送信します。
 ※ 受信するとソングがストップします。
 ※ クロックがInternalに設定されているときは受信しません。

※ MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのサステイン、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

<付表1>

各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

Voice Name	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO 1	0	122	1
GRAND PIANO 2	0	112	1
GRAND PIANO 3	0	123	1
PIANO & STRINGS	0	125	1
ELECTRIC PIANO 1	0	122	6
ELECTRIC PIANO 2	0	122	5
ELECTRIC PIANO 3	0	123	5
CHURCH ORGAN	0	123	20
JAZZ ORGAN	0	122	17
STRINGS	0	122	49
HARPSICHORD	0	122	7
E.CLAVICHORD	0	122	8
VIBRAPHONE	0	122	12

SPLIT VOICE

Voice Name	MSB	LSB	P.C.#
WOOD BASS	0	122	33
BASS & CYMBAL	0	124	33
E.BASS 1	0	122	34
E.BASS 2	0	122	36

プログラムチェンジを0~127で設定する場合は、上記リストのP.C.#から1を引いた数で指定します。たとえば、P.C.#1のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ=0になります。

7. システムエクスクルーシブメッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[FOH]→[43H]→[0nH]→[7CH]→.....→ [F7H]

FOH,43H,0nH,7CH : n=チャンネルNo.
00H,LLH : データ長
43H,4CH,20H,20H : CL
43H,4CH,50H,27H,30H,35H : CLP05
3xH,3yH : (バージョンx.y)
[パネルデータ]
[チェックサム(1バイト)]=0-(43H+4CH+20H+.....+データエンド)
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]

- (1) 音色選択
- (2) デュアル オン/オフ
- (3) デュアル音色
- (4) デュアル音量バランス
- (5) デュアル音程のずらし方
- (6) デュアル第1音色のオクターブシフト
- (7) デュアル第2音色のオクターブシフト
- (8) デュアル第1音色のエフェクトの深さ
- (9) デュアル第2音色のエフェクトの深さ
- (10) スプリット オン/オフ
- (11) スプリット音色
- (12) スプリットポイント
- (13) スプリット音量バランス
- (14) スプリット右側音色のオクターブシフト
- (15) スプリット左側音色のオクターブシフト
- (16) スプリット右側音色のエフェクトの深さ
- (17) スプリット左側音色のエフェクトの深さ
- (18) スプリットサステインペダルの有効域
- (19) リバーブタイプ1
- (20) リバーブタイプ2
- (21) リバーブデプス1
- (22) リバーブデプス2
- (23) エフェクトタイプ1
- (24) エフェクトタイプ2
- (25) エフェクトデプス
- (26) -
- (27) タッチの種類
- (28) タッチがFIXEDのときの音量
- (29) AUXペダル機能
- (30) ソフトペダルの効果の深さ
- (31) テンポ(絶対値 下位byte)
- (32) テンポ(絶対値 上位byte)
- (33) キーオフ音の音量設定
- (34) -
- (35) -
- (36) バリエーション

* パネルデータ送信要求は受信しません。

8. システムエクスクルーシブメッセージ
(ユニバーサルシステムエクスクルーシブ)

1) ユニバーサルリアルタイムメッセージ

[FOH]→[7FH]→[XnH]→[04H]→[01H] → [rrH]→
[mmH]→ [F7H]

MIDIマスターボリューム

* 全チャンネルの音量が一度に変化します。
* MIDIマスターボリュームを受信したときは、MIDI入力
チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは
変化しません。

FOH : エクスクルーシブステータス
7FH : ユニバーサルリアルタイム
7FH : ターゲットデバイスのID
04H : サブID #1 (機種コントロールメッセージ)
01H : サブID #2 (マスターボリューム)
rrH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

または

FOH : エクスクルーシブステータス
7FH : ユニバーサルリアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
04H : サブID #1 (機種コントロールメッセージ)
01H : サブID #2 (マスターボリューム)
rrH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

2) ユニバーサルノンリアルタイムメッセージ
(GM ON)

[FOH]→[7EH]→[XnH]→[09H]→[01H] → [F7H]

ジェネラルMIDIモードオン

FOH : エクスクルーシブステータス
7EH : ユニバーサルノンリアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
09H : サブID #1 (ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2 (ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

または

FOH : エクスクルーシブステータス
7EH : ユニバーサルノンリアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
09H : サブID #1 (ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2 (ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

* オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初
期状態になります。このメッセージの実行には、約
50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意
してください。

9. システムエクスクルーシブメッセージ
(XG規格)

1) XGネイティブパラメーターチェンジ

[FOH]→[43H]→[1nH]→[4CH]→[hhH]→[mmH]→
[rrH]→[ddH]→.....→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
1nH : n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
4CH : XGモデルID
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
rrH : アドレスLow
ddH : データ
: :
: :
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

* データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要
があります。
* XGシステムオンを受信することにより、MIDIがリセッ
トされて初期状態になります。このメッセージの実行
には、約50msecかかるため、次のメッセージとの間
隔を注意してください。

2) バルクダンブ(受信のみ)

[FOH]→[43H]→[0nH]→[4CH]→[aaH]→[bbH]
→[hhH]→[mmH]→[rrH]→[ddH]→.....→[ccH]→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
0nH : n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
4CH : XGモデルID
aaH : バイトカウント
bbH : バイトカウント
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
rrH : アドレスLow
ddH : データ
: :
: :
ccH : チェックサム
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

* XGシステムオンを受信すると、必要なパラメーター、
コントロールチェンジ等リセットし、初期状態にな
ります。このメッセージの実行には、約50msecかか
るため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

* XGネイティブパラメーターチェンジで、データサイズ
が2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータ
を送信します。

* XGバルクダンブのアドレスおよびバイトカウントは、
付表2の「MIDIパラメーターチェンジ表(システム)」を
参照してください。付表中トータルサイズで区切られ
たデータシリーズが一つのバルクになり、そのシリー
ズの先頭アドレス(00H、00H、00H)のみバルクデー
タのアドレスとして有効です。

<付表2>

MIDIパラメーターチェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)	
00 00 00	4	020C~05F4	マスターチューン	-50~+50[セント]	00 04 00 00	* 020CH以下の値は-50セント になります。
01				1stビット3~0→ビット15~12	400	05F4H以上の値は+50セント になります。
02				2ndビット3~0→ビット11~8		
03				3rdビット3~0→ビット7~4 4thビット3~0→ビット3~0		
04	1	00~7F	マスターボリューム	0~127	7F	
7E		0	XGシステムオン	00=XGシステムオン		
7F		0	オールパラメーターリ セット	00=オン(受信のみ)		
トータルサイズ	07					

<付表3>

MIDIパラメーターチェンジ表(エフェクト1)

※ リバース、コーラス、バリエーションタイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00~7F 00~7F	リバースタイプMSB リバースタイプLSB	エフェクトMIDIマップを参照 00: ベーシックタイプ	01 (=ホール1) 00
02 01 40	2	00~7F 00~7F	バリエーションタイプMSB バリエーションタイプLSB	エフェクトMIDIマップ参照 00: ベーシックタイプ	00 (=エフェクトなし) 00

注意: ここでいうバリエーションエフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表4>

MIDIパラメーターチェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00~7F	ドライレベル	0~127	7F

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H
OFF	00H	00H

<付表6>

エフェクトMIDIマップ(Effect)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	46H	10H
ROTARY SP	47H	10H
OFF	00H	00H

10. システムエクスクルーシブメッセージ
(エレクトロニックピアノMIDI準拠)

[FOH]→[43H]→[73H]→[01H]→[nnH]→[F7H]

FOH: エクスクルーシブステータス
 43H: ヤマハ
 73H: エレクトロニックピアノ
 01H: 機種ID(CLP共通)
 nnH: サブステータス
 コントロール nn
 内部クロック 02H
 外部クロック 03H
 F7H: エンドオブエクスクルーシブ

11. システムエクスクルーシブメッセージ
(特殊操作子)

[FOH]→[43H]→[73H]→[xxH]→[11H]→[OnH]→[ccH]→[vvH]→[F7H]

FOH: エクスクルーシブステータス
 43H: ヤマハ
 73H: エレクトロニックピアノ
 7FH: 拡張機種ID
 xxH: 機種ID 4CH
 11H: SK特殊操作子
 OnH: コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)
 cc: コントロールNo.
 vv: 値
 F7H: エンドオブエクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH
 スプリットポイント 常に00H 14H スプリットキー No.
 メトロノーム 常に00H 1BH 00H: ビートなし
 01H~0FH: 1/4~15/4
 7FH: オフ

サステインレベル Ch: 00~0FH 3DH(Chごとのピアノ
 サステイン量を設定する)
 00H~7FH

チャンネルデチューン Ch: 00~0FH 43H(Chごとのデチューン
 量を設定する)
 00H~7FH

ボイスリザーブ Ch: 00~0FH 45H 00H: リザーブオフ
 7FH: オン*1

*1 リザーブオンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキーオン時から有効になります。通常はリザーブオフです。

12. システムエクスクルーシブメッセージ
(その他)

[FOH]→[43H]→[1nH]→[27H]→[30H]→[00H]→[00H]→[mmH]→[rrH]→[ccH]→[F7H]

※ マスターチューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

FOH: エクスクルーシブステータス
 43H: ヤマハ
 1nH: n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
 27H: TG100の機種ID
 30H: サブID
 00H:
 00H:
 mmH: マスターチューニングMSB
 rrH: マスターチューニングLSB
 ccH: ccはなんでもよい。(7FH以下)
 F7H: エンドオブエクスクルーシブ

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 - 16	1 - 16 1 - 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 X *****	3 X X	
ノートナンバー	音域	0 - 127 *****	0 - 127 0 - 127	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	O 9nH, v=1-127 X	O 9nH, v=1-127 X	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	X X	X X	
ピッチベンド		X	O 0 - 24 semi	
コントロールチェンジ	0, 32 1 7 10 11 6, 38 64, 66, 67 84 91, 94 96-97 100-101	O X O X O X O X O X X X	O O O O O O O O O O O	バンクセレクト モジュレーション メインボリューム パンポット エクスプレッション データエントリー ポルタメントコントロール エフェクトデプス RPN Inc, Dec RPN LSB, MSB
プログラムチェンジ: 設定可能範囲		O 0 - 127 *****	O 0 - 127	
システムエクスクルーシブ		O	O	
コモン:	ソングポジション ソングセレクト チューン	X X X	X X X	
システム:	クロック	O	O	
リアルタイム:	コマンド	O	O	
Aux	: オールサウンドオフ : リセットオールコントロール : ローカルオン/オフ	O O X	O (120, 126, 127) O (121) O (122)	
メッセージ:	: オールノートオフ : アクティブセンス : リセット	O O X	O (123-125) O X	
備考:				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ
 モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

O : あり
 X : なし

P-140仕様

鍵盤	GH鍵盤 88鍵(A-1~C7)
音源	AWMダイナミックステレオサンプリング
最大同時発音数	64
音色数	14
効果	リバーブ、エフェクト
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、 タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、各種ファンクション
録音/再生	2パート録音/再生(3曲)、テンポ、シンクロスタート
ペダル	サステイン(ハーフペダル対応)、多機能割り当て
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲50曲(プリセットソング)
付属端子	MIDI端子(IN/OUT)、PHONES(ミニ)×2、AUX OUT(LEVEL FIXED)(L, R)端子、 DC IN+12V端子、SUSTAIN PEDAL端子、AUX PEDAL端子
記憶媒体 (フラッシュメモリ内蔵)	ユーザーソング用：65KB 外部ソング用：352KB
メインアンプ	6W×2
スピーカー	(12cm×6cm)×2
定格電源	電源アダプター PA-5D(またはヤマハ推奨の同等品)
消費電力	28W
寸法[間口×奥行き×高さ] ()内は譜面立てを立てた場合	1,334 mm×351 mm×140 mm (1,334 mm×357 mm×332 mm)
質量	17.8kg
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、 電源アダプター PA-5D(またはヤマハ推奨の同等品)、フットペダルFC3、譜面立て

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-30

フットスイッチ FC4/FC5

フットコントローラー FC7

キーボードスタンド L-140/L-140S

USB-MIDIインターフェース UX16

USBパソコンとMIDI機器を簡単に接続できるUSB-MIDIインターフェースです。

索引

A

ABリピート	18
ALL(画面表示)	15
AUX OUT [L][R](LEVEL FIXED)(エーユーエックスアウトLR)(レベルフィックス)端子	47
[AUX PEDAL](エーユーエックス ペダル)端子	13
AUXペダル機能の設定(ファンクション)	42

C

CLr(画面表示)	54
con(画面表示)	54

D

[DEMO](デモ)ボタン	14
---------------	----

E

EO2(画面表示)	54
EO4(画面表示)	54
[EFFECT](エフェクト)ボタン	24
End(画面表示)	54
Err(画面表示)	54

F

FCL(画面表示)	54
Full(画面表示)	54
FUNCTION(ファンクション)	35

L

LEFT(レフト)	30
[LEFT](レフト)ボタン	34

M

[MASTER VOLUME](マスターボリューム)スライダー	12
[METRONOME](メトロノーム)ボタン	27
MIDI	46
MIDI[IN][OUT](MIDI イン/アウト)端子	46
MIDIインプリメンテーションチャート	58
MIDI機能の諸設定(ファンクション)	43
MIDIデータフォーマット	55

N

n y(画面表示)	54
-----------	----

O

[OTHERS](アザーズ)ボタン	19
-------------------	----

P

[PHONES](フォーンズ)端子	13
[PLAY/PAUSE](プレイ/ポーズ)ボタン	15, 34

R

[REC](レコード)ボタン	28
[REVERB](リバーブ)ボタン	24
RIGHT(ライト)	30
[RIGHT](ライト)ボタン	34
rnd(画面表示)	15

S

SMF(Standard MIDI File)	33
[SONG SELECT](ソングセレクト)ボタン	15, 33
[STANDBY/ON](スタンバイ/オン)スイッチ	12
[STOP](ストップ)ボタン	15, 34
[SUSTAIN PEDAL](サステインペダル)端子	13

T

[TEMPO/FUNCTION](テンポ/ファンクション)ボタン	27, 36
[TOUCH](タッチ)ボタン	25
[TRANSCOPE](トランスポーズ)ボタン	26

V

[VARIATION](バリエーション)ボタン	23
VOICE(ボイス)	19

ア

安全上のご注意	2
---------	---

イ

移調	26
----	----

オ

音に残響、効果を付ける	24
音に変化を付ける	23
音色一覧	51
音色ボタン	19
音色を重ねる	20
音律	39
音量(ボリューム)を調節する	12

カ

外部ソング	33
各部の名前と機能	10

キ

キーオフ音の音量設定	42
キー(調)を変える	26
共鳴効果の深さの設定	42
曲再生チャンネル選択	42
曲のパート再生オフ時の音量設定	43
曲を再生する	33

ク

繰り返し再生	15, 18
--------	--------

ケ

鍵域を左右に分けて弾く	21
-------------	----

コ

工場出荷時の設定	45
困ったときは	50
コンピューターと接続する	48

サ

再生/一時停止(ペダル)	17
削除	29

シ

仕様	59
初期設定	45
初期設定一覧	52
シンクロスタート	17

ス

スプリット	21
スプリットの諸設定	41
スプリットポイント	21

ソ

その他の諸設定	42
ソフトペダル効果の深さの設定	42
ソング	15

タ

端子について	46
--------------	----

チ

チューニング	38
--------------	----

テ

デモ曲	14
デュアル	20
デュアルの諸設定	40
電源を入れる	12
テンポ	27

ト

トランスポーズ	26
---------------	----

ハ

バックアップ	49
バックアップオン/オフの設定	45

ヒ

ピアノ50曲(プリセットソング)	15
拍子	27

フ

ファクトリーセット	45
ファンクション一覧	35
ファンクションの初期設定	53
付属品	7
譜面立て	13
プリセット	15

ヘ

ペダル	13
ペダルの極性切り替え	42
別売品のご紹介	59
ヘッドフォン	13

ホ

ボイス	19
-----------	----

メ

メッセージ一覧	54
メトロノーム	27
メトロノーム音量の設定	43

モ

目次	8
目的別目次	9

レ

連続再生	15
------------	----

ロ

録音	28
録音(記録)されるデータの種類	31
録音し直す	29
録音(パートごとに録音する)	30

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右に記載の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。


●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター

- 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、土曜日 9:00～17:30（祝祭日および弊社休業日を除く）
- ナビダイヤル  **0570-012-808** ※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
- FAX (053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45（祝祭日および弊社休業日を除く）*お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	FAX (011) 512-6109
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	FAX (03) 5762-2125
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	FAX (053) 462-9244
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F	FAX (052) 652-0043
大阪サービスセンター	〒564-0052	吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F	FAX (06) 6330-5535
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2丁目11-4	FAX (092) 472-2137

■ヤマハ電子ピアノに関するお問い合わせ窓口

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

- 受付日 月曜日～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
- 受付時間 10:30～19:00
- <http://www.yamaha.co.jp/support/>

国内楽器営業本部

HK営業部 企画推進室 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488-6795

PA・DMI事業部

EKBマーケティング部 CL・PKグループ 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL (053) 460-3275

■インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

- ・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>
- ・電子ピアノ/キーボードのホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/>
- ・ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- ・あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ <http://www.music-eclub.com/>
- ・お客様サポート & サービス <http://www.yamaha.co.jp/support/>

※名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は無塩素紙(ECF:無塩素系漂白パルプ)を使用しています。

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation
© 2005 Yamaha Corporation

WE98570 612POCP15.2-02B0
Printed in Japan